

1. 流域の自然状況

大淀川は、その源を鹿児島県曾於郡中岳に発し、北流して都城盆地に出、霧島山系等から湧き出る豊富な地下水を水源とする数多くの支川を合わせつつ狭窄部に入り、東に転流し岩瀬川等を合わせて高岡町に出、最大の支川本庄川を入れて宮崎平野を貫流し宮崎市において日向灘に注いでいる流域面積2,230km²、幹川流路延長107kmに及ぶ九州屈指の河川である。

その流域は、宮崎県の南西部に位置し、鹿児島、熊本、宮崎の三県にまたがり、5市16町3村が含まれ、社会、経済、文化の基盤をなしているとともに、流域の一部が霧島屋久国立公園、九州中央山地国定公園の指定を受けるなど自然環境や景観も特に優れていることから、本水系に対する治水・利水・環境についての意義はきわめて大きい。



図1-1 大淀川水系流域図

写-1



◀ 源流部

スギ・ヒノキ等の人工林で覆われた源流部。

写-2



上流部 ▶

周辺の山々に囲まれて上流域を形成している都城盆地。

写-3



◀ 中流狭窄部

都城盆地と宮崎平野の間に位置し、日向山地と鰐塚山地に挟まれた中流域狭窄部。

写-4

下流(河口)部 ▶

沖積平野と洪積台地からなる、都市化の集中する下流域宮崎市街部。



1-1 地形

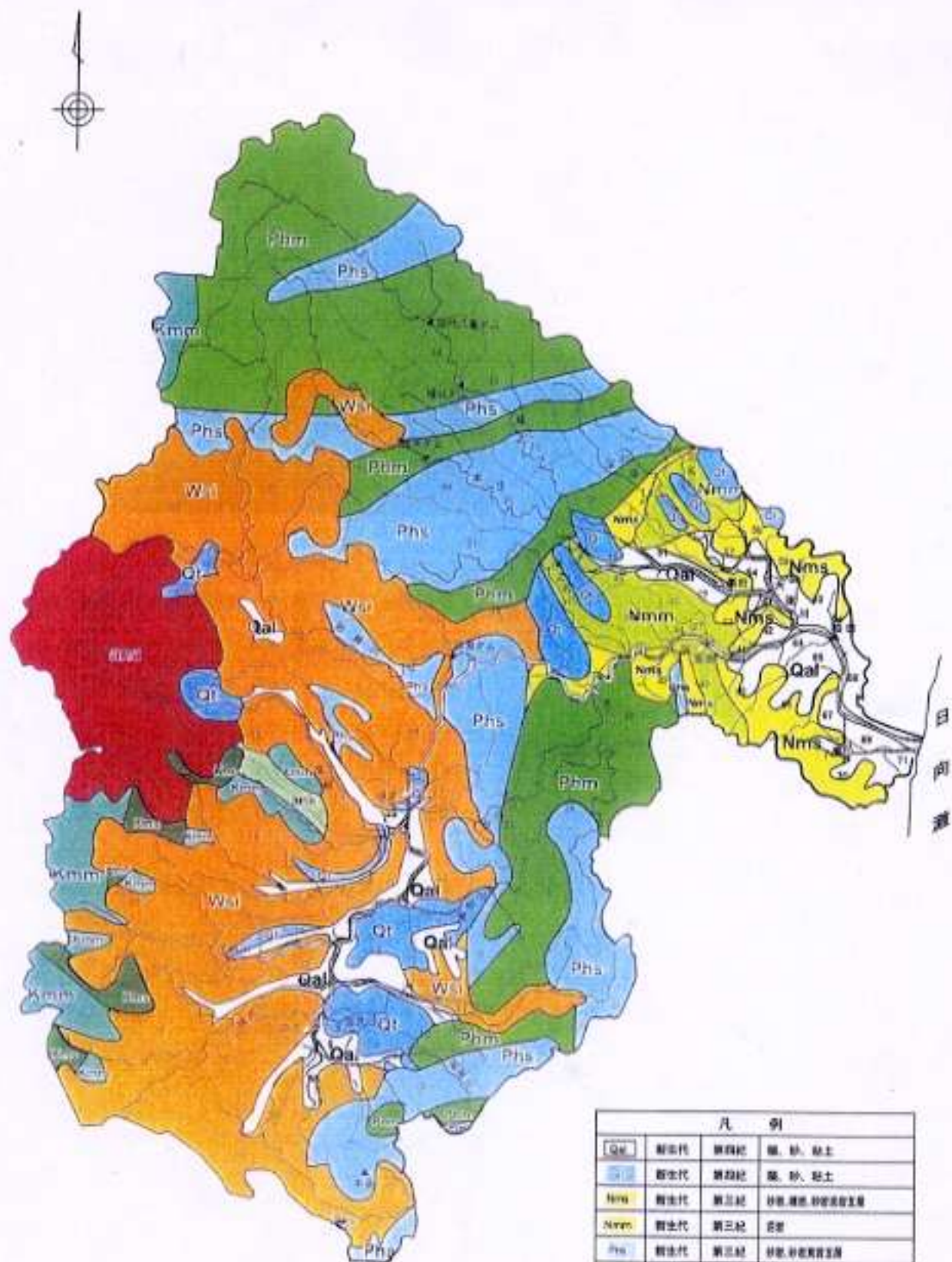
大淀川流域は東西約55km、南北約70kmで、やや長方形をなし轟付近の中流狭窄部を境とした上流域と下流域に分けられる。都城市を中心とした上流域の盆地は鰐塚山地と霧島火山部との間にあり、盆地内にはかなり広い段丘と沖積地とが発達している。大淀川は、その盆地内を流れる諸支川を合流して北流し、日向山地と鰐塚山地とがせばまる山間地の狭窄部に入り、高岡付近において宮崎平野に入る。

下流域は広い沖積平野を形成し、宮崎平野の主要部を成しており、北西から流下する本庄川を合流し、日向灘に注いでいる。

1-2 地質

大淀川流域の地質は、水源地帯では中生代の四万十層群が400m内外の山地を形成しているが、都城盆地は第三紀から第四紀にかけて霧島火山群が噴火した際に陥没して形成されたといわれ、その盆地底には沖積層が発達しているが、大部分は厚い火山灰で覆われ、この地域でシラスと呼ばれる軽石の粉末、安山岩の破片、礫等からなる地層を成している。この盆地に流入する諸支川及び岩瀬川はいずれも火山灰地帯を流れ河岸に沿って狭長な沖積層が見られ、高岡町から下流にいたっては第三紀層がみられ各所に火山灰をかぶっている。

一方、本庄川の綾北川合流点より上流及び綾北川は、中生代の四万十層群からなる険しい山岳の間を流れ、両川の合流点から下流に至り平地に出ている。図1-2でも明らかな様に、都城市付近のほか、広い範囲にわたりシラス層が分布している。



注) 九州地方土木地質図

(九州地方土木地質図編纂委員会 (財) 国土開発技術研究センター作成) より

図1-2 大淀川流域地質図

1-3 気候

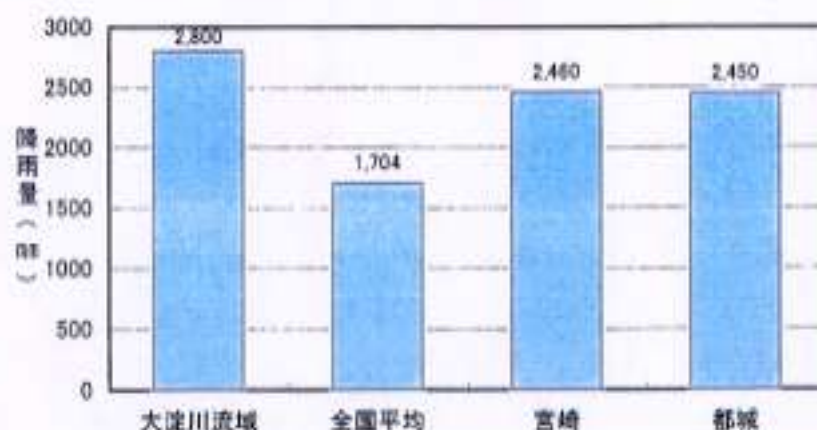
大淀川流域の気候は下流域が南海型気候、上流域（本庄川流域含）が山地型気候に属し、海岸地方では年平均気温が17℃内外であって、日本で最も温暖な地帯に属している。しかし、山沿いの地方では年平均気温が15℃以下となり、霧島山系のえびの高原では冬季の最低気温が氷点下20℃以下に下がることもある。

大淀川流域年平均降水量は2,800mm程度であり、鰐塚山系は3,000mmを超える多雨地域となっている。月別では6月～7月の梅雨期及び8月～9月頃の台風期に集中しており、特に台風が本流域に与える影響は大きく、既往の大出水のほとんどが台風によるものである。

気 候 区 分 図



年間降雨量の比較



注) 大淀川流域は、H2～H11年の10ヶ年（今回算出）
 全国平均は、「理科年表」記載の全国主要観測所の平均値（S36～H2年）
 宮崎、都城は、「日本気候表」よりS46～H12年の平均値

2. 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

大淀川は、その源を鹿児島県曽於郡中岳に発し、北流して都城盆地に出、多くの支川を合わせつつ狭窄部に入り、東に転流し岩瀬川等を合わせて高岡町に出、最大の支川本庄川を合わせて宮崎平野を貫流し、宮崎市において日向灘に注いでいる。その流域は、中流狭窄部を境として都城盆地を中心とする上流部、宮崎平野を中心とする下流部に大別される。



流域の地質は、東は鰐塚山系、西は霧島火山部に挟まれ、火山灰土が広く分布しており、各支川はほぼ東西より本川に合流して都城盆地を形成している。中流部は狭谷状を成しており、地質は泥熔岩及びシラスである。下流部は沖積平野を形成し、宮崎平野の主要部を成している。

また当流域は、南九州の多雨地域に位置し、さらに上流域の都城盆地を形成しているシラス土壤に起因して豊富な水量に恵まれ、既存の各種用水については安定供給されている。

このような大淀川の流域には、それぞれの流域の気候風土に順応した多種多様な環境が形成され、それにとまなう動植物も多数生息している。

上流域の植生は、草原性が色濃く、チガヤーススキ群、ネズミムギ栽培などが河川内を占めて、このような環境の下、小型哺乳類のアカネズミや猛禽類のハイタカなどが河川内で確認されている。

中流域は、日向山地と鰐塚山地に挟まれた山間狭窄部で、そのほとんどが自然のまま残され100～300年クラスの森林も現存している。

県都宮崎市街地の中心部を流れる下流部は、都市化が進み人為的環境が色濃いものの、河口には、魚類相の頂点に位置するアカメが生息し、その生態系を維持するための豊かな生物環境が保持されている。また、まとまったヤナギ林やワンド、人の立ちいれない中州、丸島が残されてサギ類のコロニー、カモ類の休息地、メダカなどの生息地が残されている。また、大淀川河口の砂浜には絶滅危惧Ⅱ類のアカウミガメが毎年産卵のため上陸し、宮崎県の天然記念物にも指定されている。

大淀川最大の支川本庄川流域は、日本有数の「原生の照葉樹林帯」を上流域に抱え、生物の生息環境を見ても、他の流域（上・中・下流）とは比較にならないほど優れている。水際には河跡湖が点在し、ミズキンバイ（絶滅危惧ⅠA類）、ホザキモフサモ群落、メダカ（絶滅危惧Ⅱ類）、カヤネズミなど豊かな生物相を成している。

2-2 河川の自然環境

1) 源流及び上流部

大淀川の源流部は、鰐塚山地の南東部でスギ・ヒノキ等の人工林で覆われ、そこにはあまり高い山地はなく、400～500m級の台地や丘陵がその水源となっている。



大淀川源流域を望む

また、上流部を形成している都城市を中心とした都城盆地は、鰐塚山地と霧島火山との間にあり、盆地内にはかなり広い段丘と沖積地とが発達している。



山地に囲まれた都城盆地

畜産の盛んな都城盆地では、河川の高水敷は牧草の生産の場所として有効に利用され、草原性の植生が色濃く、チガヤーススキ群落、キンエノコロメヒシバ群落、ネズミムギ栽培などが広い面積を占めている。水際の植生は、オギ、ツルヨシなどが覆い、広大な高水敷には、ヒメネズミ、アカネズミ、コウベモグラ、ノウサギなどの哺乳類が多く生息している。鳥類では、土の剥き出しとなっている自然河岸にカワセミ、ヤマセミが、オギ植生の中にバン、ヒクイナ、また猛禽類のハイタカ、チョウゲンボウ、ハヤブサなどが確認できる。魚類では、コイを代表に自然河岸の流れの緩やかな水際には、メダカ（絶滅危惧Ⅱ類）、ヤマトシマドジョウ、モツゴ、ドンコの魚が生息している。



コイ

日本全国に分布し、大淀川全域に広く分布している。
大淀川では、水深50cmぐらいのヨシの自然河岸に多く生息する。



ヤマトシマドジョウ

九州と山口県に分布し、大淀川では、本庄川の6k500付近及び上流域（都城市）で確認されている。
大淀川において数尾しか確認されていない。



ヤマセミ

北海道から九州まで各地に留鳥として分布し、大淀川では上流域をはじめほぼ全域で確認されている。
瀬・淵など変化に富んだ河川環境が形成されているところで確認できる



カワセミ

全国各地に分布し、大淀川でもほぼ全域で確認されている。
山地から平地の川、池、湖などの水辺に単独又はつがいで生息している。

大淀川上流域を代表する河川景観
オギ・ツルヨシ等の植生が広がっている。



2) 中流部

都城盆地と宮崎平野を結ぶ日向山地と鰐塚山地に挟まれた中流狭窄部は、豊かな自然が残されており、自然林と人工林が混在する険しい地形である。



山地に挟まれた、中流狭窄部を望む

この区域では、宮崎の河川を代表する大淀川本来の原風景を見ることができる貴重な区域である。また、場所によっては、樹齢100～300年の森林風景を見る事が出来る区域である。これらの河畔林は、木陰の創出や鳥類のねぐら、鳥類の餌としての落下昆虫の供給場所などとして、河川の生態系の維持に重要な役割を果たしている。狭窄部をぬって流れてくる大淀川中流域は広い高水敷や低水敷はほとんど見られない。植生的には、スダジイ、ヤブツバキ、タブノキなどを中心としたミミズバースダジイ群落等の山地型植生が両岸までせまっている。また魚類ではアユカケ（カマキリ）、ボウズハゼ、ウナギ等の回遊型をはじめ、オイカワ、カワムツB型、コイなどが生息している。



河畔林は河川の生態系の維持に重要な役割を果たしている



アユカケ（カマキリ）

日本固有種で、日本海側は秋田県以南、太平洋側は神奈川県以南の各地に分布し、大淀川では、大淀川中流域や本庄川に生息する。
河床が礫の区域でよく捕獲される。



ボウズハゼ

関東地方以西の太平洋側から琉球列島に分布し、日本海側では見られない。大淀川流域では、大淀川中流域と綾北川で確認されている。上流域（都城地方）では確認されない。
流れの緩いところから速い水域まで、幅広く棲む。



マガモ

日本の大部分の地域に冬鳥として渡来する。大淀川全域にも冬鳥として飛来する。中流域の流れの緩やかなところやワンド等で、群れをなして休息している光景を見かける。

3) 下流部

(1) 大淀川



大淀川河口（宮崎市街部中心を流れる）

下流部高岡付近にて宮崎平野に入る下流部は、宮崎市街地中心部を貫流しており、高水敷は親水公園やゴルフ場、運動公園等に整備され、市民に親しまれている。さらに、大淀川下流左岸部の河畔には観光ホテル群があり、「観光宮崎の顔」として県内外の観光客でにぎわっている。



橋公園

宮崎市街地の中心を流れる大淀川の河川環境は、高水敷では市民のスポーツ、休息、イベント等に多く利用され、人工的に改変された河川空間である。しかしこのような河川環境の中でも、河口付近に位置する中州、通称「丸島」は、市街地の中心にありながら人為的改変から逃れ、植生的には極相に適し、ヤブニッケイ・タブノキ群落、ホテイチク林からなり、景観的にうっそうとした森林となっ

ている。さらに、これらは野鳥にとっても貴重な地域で、コサギ、ゴイサギをはじめとするサギ類のコロニーを確認する事ができる。またその他の野鳥、カワウ、ミサゴ（準絶滅危惧）の休息、生息地としても重要な箇所となっている。



丸島

魚類ではアカメの生息地としても全国的に有名である。これは、夏の時期になると表われるコアマモ（植物）が丸島周辺や右岸、津屋原池（通称タンポリ）に生息していることが要因で、アカメの稚魚、幼魚をはじめ、スズキなどの生息場となっている。また、河口より10k000左岸付近は、ジャヤナギーアカメヤナギ群落を中心に植生豊かな中州、ワンドにより物理的に緩流域、止水域が形成され遊泳力に弱いメダカ（絶滅危惧Ⅱ類）や、オイカワの稚魚の生息場となっている。河口左岸では、日向灘に直接面した砂浜の海岸が広がり、近年減少傾向にあるアカウミガメの産卵場として、毎年、6月～9月に出現が確認されている。



アカメ（準絶滅危惧）

日本固有種で、宮崎県と高知県の大きな河川の河口付近及び、その近海のみに分布する。大淀川の丸島周辺、八重川津屋原池周辺に生息している。



スズキ

日本各地に分布し、大淀川では河口から中流域、大淀川第二発電所（29k000）付近まで確認される。

外海で産卵し孵化した仔魚は浮遊生活を送り、幼魚期になると津屋原池（タンポリ）や丸島周辺のコアモ場にすみつく。アユの遡上期にはアユを追って河口から上流へのぼる。秋には再び海に下る。



カワウ

大淀川河口、丸島付近に集団で生息しており、昼は水際の水制杭にとまっているのがよくみられる。



ミサゴ

季節に関係なく大淀川河口域、特に丸島で確認されている。魚食性のため河口に生息するボラ・スズキ等と餌として生息している

（２）本庄川

九州山地内部の深い峡谷を抱え、1,000m級の山々をその水源とする本庄川は、豊富な森林資源に恵まれ九州屈指の清流河川ともなり、それに伴う豊かな自然の生態系が営まれている。さらに、原生の照葉樹林帯を有する綾町では、自然を生かした町づくりが行われている。



本庄川の照葉樹林

上流域の照葉樹林帯を抱える本庄川流域では、川が自由に蛇行・侵食・堆積することのできる遊水域（低水敷）が川幅広く広がっており、このことは河跡湖やワンドが形成されやすく、河川本来のあるべき環境を成している。



本庄川合流点



河跡湖やワンド

本庄川5k000～6k000間は特に色濃く出ており、点在する河跡湖やワンドには、植物のミズキンバイ（絶滅危惧ⅠA類）を始め、ヨシ、ツルヨシ、オギなどの優れた河辺植生環境を有し、本庄川12k600付近には沈水植物のホザキフサモオオカナダモ群落が繁茂している。また魚類では、ナマズ、カマキリ、モツゴ、ヤマトシマドジョウ、メダカ、ボウズハゼ、などが確認されている。鳥類ではヤマセミ、バン、ウズラ、コアジサシを確認できる。河川の自由度が高い本庄川は瀬や早瀬、淵が常に入れ変わり、同時に浮石の多い河床を形成しアユの産卵場も所々に見られる。またこの流域は景観的に優れ、河川の前風景がまとまって残されている。



アユ

回遊性のアユは、北海道西部以南の日本各地に分布する。大淀川では漁協による放流が行われているため、上流から下流まで確認することができる。天然アユは高岡ダムまでしか遡上できない。



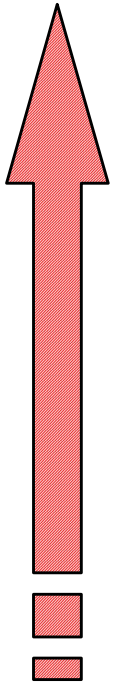
ミズキンバイ（絶滅危惧ⅠA種）

北海道、本州、四国、九州で見られる。大淀川流域では、本庄川5k000～6k000に点在する河跡湖またはワンドに生育している。若干の水の循環、水がある程度貫流するような環境が必要。

4) 大淀川の自然環境

大淀川の自然環境を把握するために、河川水辺の国勢調査を主に文献、ヒアリング等のデータを踏まえ大淀川に生息する特定種・外来種についてとりまとめた。

特定種・・・環境省レッドリスト，または宮崎県版レッドデータブック掲載種
外来種・・・大淀川の在来種の生息生育を脅かす種

重要 	特定種カテゴリーの説明		
	区分	環境省レッドリストより	宮崎版レッドデータブックより
	E X	絶滅	絶滅
		我が国ではすでに絶滅したと考えられる種	宮崎県ではすでに絶滅したと考えられるもの
	E W	野生絶滅	野生絶滅
		我が国において野生ではすでに絶滅したと考えられる種	宮崎県において野生ではすでに絶滅したと考えられるもの
	C R	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧ⅠA類
		絶滅の危機に瀕している種	宮崎県において絶滅の危機に瀕しているもの
	E N	絶滅危惧ⅠB類	絶滅基部ⅠB類
		絶滅危惧ⅠA類ほどではないが近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種	宮崎県において絶滅危惧ⅠA類ほどではないが近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種
	V U	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
		絶滅の危機が増大している種	宮崎県において絶滅の危機が増大しているもの
	N T	準絶滅危惧	準絶滅危惧
		存続基盤が脆弱な種	宮崎県において種の存続への圧迫が強まっているもの
	D D	情報不足	情報不足
		評価するだけの情報が不足している種	宮崎県においてランク判定するに足る情報が不足している種

(1) 大淀川に生息，生育する重要な種

大淀川に生息，生育する重要な生物としては，次表の特定種一覧表に示すとおりである。特定種は，魚介類 8 種，植物 7 種，鳥類 9 種，両生類・爬虫類・哺乳類 3 種，陸上昆虫 2 種である。

大淀川で確認された魚介類の特定種一覧表

区分	種 名	種 別	確認地点
魚 介 類	アカメ	環境省 準絶滅危惧 宮崎県 絶滅危惧Ⅱ類	汽水域
	アリアケギバチ	環境省 準絶滅危惧 宮崎県 絶滅危惧ⅠＡ類	中流域
	カマキリ (アユカケ)	宮崎県 準絶滅危惧	汽水域・下流域・ 本庄川流域
	カワアナゴ	宮崎県 情報不足	汽水域・下流域
	ナマズ	宮崎県 準絶滅危惧	下流域・上流域・ 本庄川流域
	メダカ	環境省 絶滅危惧Ⅱ類 宮崎県 絶滅危惧Ⅱ類	下流域・上流域・ 本庄川流域
	モツゴ	宮崎県 情報不足	下流域・上流域・ 本庄川流域
	ヤマトシマドジョウ	宮崎県 情報不足	上流域・本庄川流域

大淀川で確認された植物の特定種一覧表

区分	種 名	種 別	確認地点
植 物	ウキヤガラ	宮崎県 絶滅危惧ⅠＡ類	本庄川流域
	カワヂシャ	環境省 準絶滅危惧	下流域・上流域
	グンバイヒルガオ	宮崎県 絶滅危惧Ⅱ類	汽水域
	ゴマクサ	環境省 絶滅危惧ⅠＢ類 宮崎県 準絶滅危惧	上流域
	タコノアシ	環境省 絶滅危惧Ⅱ類 宮崎県 絶滅危惧Ⅱ類	汽水域・下流域・ 本庄川流域
	ミズキンバイ	環境省 絶滅危惧ⅠＡ類 宮崎県 絶滅危惧ⅠＡ類	本庄川流域
	ミゾコウジュ	環境省 準絶滅危惧	汽水域・下流域・ 上流域・本庄川流域

大淀川で確認された鳥類の特定種一覧表

区分	種 名	種 別	確認地点
鳥 類	ウズラ	環境省 情報不足 宮崎県 準絶滅危惧	下流域・上流域・ 本庄川流域
	オジロトウネン	宮崎県 準絶滅危惧	上流域
	コアジサシ	環境省 絶滅危惧Ⅱ類 宮崎県 準絶滅危惧	汽水域・下流域・ 上流域・本庄川流域
	コノハズク	宮崎県 絶滅危惧Ⅱ類	下流域
	ハイタカ	環境省 準絶滅危惧 宮崎県 準絶滅危惧	上流域
	ハヤブサ	環境省 絶滅危惧Ⅱ類 宮崎県 準絶滅危惧	下流域・上流域
	ヒクイナ	宮崎県 準絶滅危惧	上流域
	フクロウ	宮崎県 絶滅危惧Ⅱ類	下流域
	ミサゴ	環境省 準絶滅危惧 宮崎県 準絶滅危惧	汽水域・下流域

大淀川で確認された両生類・爬虫類・哺乳類の特定種一覧表

区分	種 名	環 境 省	確認地点
両生類	トノサマガエル	宮崎県 準絶滅危惧	汽水域・本庄川流域
爬虫類	アカウミガメ	環境省 絶滅危惧Ⅱ類 宮崎県 準絶滅危惧	汽水域
哺乳類	ジネズミ	宮崎県 情報不足	下流域・本庄川流域・ 上流域

大淀川で確認された陸上昆虫類の特定種一覧表

区分	種 名	種 別	確認地点
陸 上 昆 虫	アオカナブン	宮崎県 準絶滅危惧	下流域
	モートンイトトンボ	宮崎県 絶滅危惧Ⅱ類	本庄川流域

(2) 大淀川に生息，生育する外来種

大淀川に生息，生育する外来種としては，次表の外来種一覧表に示すとおりである。外来種は，魚介類 4 種，植物 9 種，両生類・爬虫類・哺乳類 2 種，陸上昆虫 1 種である。

大淀川で確認された外来種一覧表

区 分	種 名	確認地点
魚 介 類	オオクチバス（フッパバス）	汽水域・下流域
	ブルーギル	下流域・中流域
	タイリクバラタナゴ	下流域・上流域・本庄川流域
	アメリカザリガニ	上流域
植 物	オオブタクサ	下流域
	セイタカアワダチソウ	汽水域・下流域・上流域・本庄川流域
	ハルシャギク	下流域
	タチスズメノヒエ	下流域・上流域
	アメリカスズメノヒエ	汽水域
	アメリカセンダングサ	汽水域・下流域・上流域・本庄川流域
	オオカナダモ	汽水域・下流域・上流域・本庄川流域
	シナダレスズメガヤ	汽水域・下流域・上流域・本庄川流域
	ヤナギハナガサ	汽水域・下流域・上流域・本庄川流域
両 生 類	ウシガエル	下流域・上流域
爬 虫 類	ミシシッピーアカミミガメ	上流域
陸上昆虫	アルファルタコゾウムシ	中流域・上流域

(3) 区間毎の主な環境要素と河川環境を特徴づける種及び集団分布地、繁殖地等

区 域	主な環境の構成要素	河川環境を特徴づける種	集団分布地、繁殖（産卵）地、ねぐら
汽水域 0k～10k 付近	○水域 ・汽水域，入り江 ○陸域 ・砂浜，干潟， 中洲（島）	魚介類： <u>アカメ</u> ， <u>ウキ</u> ， <u>カマリ</u> ， <u>スギ</u> ， <u>ホラ</u> ， <u>マハセ</u> ， <u>カリアコ</u> 底生動物： <u>アサシヤコ</u> ， <u>ゴカイ</u> ， <u>ヤマトシミ</u> 植 物： <u>クシハ</u> ， <u>イルカ</u> ， <u>オ</u> ， <u>コアモ</u> ， <u>ヨシ</u> 鳥 類： <u>コアシサシ</u> ， <u>ミサコ</u> ， <u>カウ</u> ， <u>カ</u> 類 両爬虫： <u>アカカメ</u>	魚介類： <u>アカメ</u> ， <u>スギ</u> その他の幼 稚魚の繁殖地 鳥 類： <u>カ</u> 類の集団分布地， 越冬地， <u>サ</u> 類の集団 繁殖地・ねぐら 両爬虫： <u>アカカメ</u> の産卵地
下流域 10k～28k 付近	○水域 ・瀬，淵， <u>ワト</u> ○陸域 ・河畔林， <u>ヨシ</u> ・ <u>サ</u>	魚介類： <u>ウキ</u> ， <u>カマリ</u> ， <u>スギ</u> ， <u>ホラ</u> ， <u>マハセ</u> ， <u>カリアコ</u> ， <u>タカ</u> 底生動物： <u>ヤマトシミ</u> 植 物： <u>ヨシ</u> ， <u>タコノアシ</u> ， <u>ミゾコウシュ</u> ， <u>カワチシヤ</u> 鳥 類： <u>コアシサシ</u> ， <u>ミサコ</u> ， <u>カ</u> 類	魚介類： <u>アユ</u> の産卵場 鳥 類： <u>カ</u> 類の集団分布地， 越冬地， <u>サ</u> 類の集団 繁殖地
中流域 28k～54k 付近	○水域 ・早瀬，淵 ○陸域 ・樹林地，砂礫地	魚介類： <u>コイ</u> ， <u>ウグイ</u> ， <u>ウキ</u> ， <u>オイワ</u> ， <u>カラムシ</u> 型， <u>チフ</u> 植 物： <u>ヤキ</u> 類， <u>スタシイ</u> ， <u>ヤツハキ</u> ， <u>タフノキ</u> 鳥 類： <u>カ</u> 類	鳥 類： <u>カ</u> 類の集団分布地， 越冬地
上流域 54k～上流	○水域 ・早瀬，淵， <u>ワト</u> ○陸域 ・ <u>ヨシ</u> ・ <u>サ</u> ，草地	魚介類： <u>オイワ</u> ， <u>コイ</u> ， <u>ヤマトシミ</u> ， <u>シヨウ</u> ， <u>ナマス</u> ， <u>メダカ</u> ， <u>モソコ</u> ， <u>トシコ</u> 底生動物： <u>マシミ</u> 植 物： <u>ネズミ</u> ， <u>ミゾコウシュ</u> ， <u>カワチシヤ</u> 鳥 類： <u>ハヤブサ</u> ， <u>ウスラ</u> ， <u>ハタカ</u> ， <u>ヤマセ</u> ， <u>カササギ</u> ， <u>オシロイ</u> 両爬虫： <u>アカネ</u> ， <u>ミ</u> ， <u>ノサキ</u>	鳥 類： <u>カ</u> 類の集団分布地， 越冬地
本庄川 流域	○水域 ・ <u>ワト</u> ，早瀬，淵， 河跡湖 ○陸域 ・ <u>ヨシ</u> ・ <u>サ</u> ，砂礫 地， 河畔林，沈水植物	魚介類： <u>アユ</u> ， <u>オイワ</u> ， <u>コイ</u> ， <u>カマリ</u> ， <u>ホラ</u> ， <u>マハセ</u> ， <u>メダカ</u> ， <u>モソコ</u> ， <u>ヤマトシミ</u> ， <u>シヨウ</u> 底生動物： <u>キロカガ</u> ， <u>ロウ</u> ， <u>エルモンヒラカゲ</u> ， <u>ロウ</u> 植 物： <u>ミスキン</u> ， <u>ハ</u> ， <u>ヤキ</u> 類， <u>ヨシ</u> ， <u>オキ</u> ， <u>タコノアシ</u> ， <u>ミゾコウシュ</u> ， <u>オカサ</u> ， <u>モ</u> 鳥 類： <u>サ</u> 類， <u>カ</u> 類， <u>ウスラ</u> ， <u>カササギ</u> ， <u>コアシサシ</u> ， <u>ハ</u> ， <u>ヤマセ</u> 両爬虫： <u>ノサキ</u> ， <u>アカネ</u> ， <u>ミ</u> ， <u>カササギ</u>	魚介類： <u>アユ</u> の産卵場 <u>メダカ</u> やその他の稚魚の 再生産の場 鳥 類： <u>サ</u> 類のねぐら

※ 下線は特定種を示す

(4) 文献一覧表

No.	文 献 名	関連項目
1	1998年7月4日 宮崎日日新聞掲載記事	魚類
2	西高岡中学校 (1951) 西高岡中学校教育報告書	魚類
3	平成3～4年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系魚介類調査	魚介類
4	平成8～9年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系魚介類調査	魚介類
5	山と溪谷社 (1990) 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚	魚類
6	益田 一 他 東海大学出版会 (1988) 日本産魚類大図鑑	魚類
7	平成10年度 多自然型川づくり調査	魚類・植物・底生動物
8	平成11年度 多自然型川づくり調査	魚類・植物・底生動物
9	平成12年度 多自然型川づくり調査	魚類・植物・底生動物
10	平成 9年度 多自然型川づくり調査	魚類・植物・底生動物
11	小学館 (1985) 自然観察シリーズ22 日本の両生類・爬虫類	両生類・爬虫類・哺乳類
12	平成10年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系両生類・爬虫類・哺乳類調査	両生類・爬虫類・哺乳類
13	平成 5年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系両生類・爬虫類・哺乳類調査	両生類・爬虫類・哺乳類
14	平成11～12年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系植物調査	植物
15	平成4～5年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系植物調査	植物
16	平凡社 (1985) フィールド版 日本の野生植物 草本	植物
17	平凡社 (1993) フィールド版 日本の野生植物 木本	植物
18	北隆館 (1989) 改訂増補 牧野新日本植物図鑑	植物
19	財団法人リバーフロント整備センター編 (1996) 川の生物図典	全般
20	平成 8年度 大淀川河川生態系調査	全般
21	宮崎県版レッドデータブック作成検討委員会 (2000) 宮崎県版レッドデータ 宮崎県の保護上重要な野生生物	全般
22	母なる川大淀川パンフレット	全般
23	平成4年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系底生動物調査	底生動物
24	平成8～9年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系底生動物調査	底生動物
25	平成12年度 河川水辺の国勢調査 小丸川水系底生動物調査	底生動物
26	谷章三 トンボ出版 (1996) 水生昆虫の観察	底生動物
27	谷田一三監修 全国農村教育協会 (2000) 原色 川虫図鑑	底生動物
28	平成12年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系鳥類調査	鳥類
29	平成12年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系鳥類調査	鳥類
30	平成6～7年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系鳥類調査	鳥類
31	山と溪谷社 (1998) 山溪ハンディ図鑑 日本の野鳥	鳥類
32	阿部 永 他 財団法人自然環境研究センター (1994) 日本の哺乳類	哺乳類
33	平成7～8年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系陸上昆虫調査	陸上昆虫類
34	東海大学出版会 (1994) ヤマケイポケットガイド9 チョウ・ガ	陸上昆虫類
35	平成3～4年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系陸上昆虫調査	陸上昆虫類
36	今森光彦 山と溪谷社 (1999) ヤマケイポケットガイド 野山の昆虫	陸上昆虫類
37	H11 大淀川瓜生野地区生態系調査 株式会社 建設技術研究所	全般

2-3 特徴的な河川景観や文化財等

1) 観光及び景勝地

流域内には2つの国立・国定公園及び2つの県立自然公園があり、支川庄内川上流にある甌穴群や関之尾の滝、綾南川上流のままこ滝、岩瀬川上流の三之宮峡等の景勝地が数多く点在し、自然探勝や行楽に訪れる人々で賑わいを見せる。



関之尾の滝と甌穴

日本の滝100選にも選ばれた関之尾滝は、幅40m、高さ18mにも及ぶ大滝、そして木々の間から流れ落ちる男滝、女滝の3つの滝からなる。

流れる水の力が、川底の小石や岩石の破片を回転させることによりできた穴である関之尾甌穴群（天然記念物）は世界最大級の規模であり、地質学上でも貴重な資料とされている。

（出典：宮崎工事事務所）



三之宮峡

岩瀬川上流で約4km続く谷間にある。アユやニジマスが泳ぐ透き通った川の周りには、そびえ立つ高さ30mの“びょうぶ岩”や30畳ほどの広さをもつ“カップ洞”などユニークな景観を持つ。

（出典：宮崎工事事務所）



長田峡

沖水川の上流10kmにわたる深い谷間にある。春には山桜が、秋には紅葉も楽しめ、清らかな水にはヤマメやウグイが泳いでいる。

（出典：宮崎工事事務所）



ままこ滝

季節ごとに、ちがう風景をみせる森が、深みのある色合いの水をたたえる小野湖の水面に映え、その奥にはしぶきをあげて流れ落ちる名滝の景観。昭和8年には「須木の滝」として県の名勝に指定されています。

（出典：宮崎工事事務所）

2) 文化財

大淀川流域には歴史的に重要な文化財・史跡が多く、表2-1に示すとおり国指定で22件、県指定で74件もの文化財が存在する。



注) 番号は、表2-1(1)大淀川流域内文化財一覧表(国指定)中の番号を示す。

图2-1 大淀川流域内国指定文化財位置图

表2-1(1) 大淀川流域内文化財一覧表

(1) 国指定

番号	種別	名 称	所 在 地	指定年月日
1	重文	木造薬師如来及び両脇侍像（三軀）	宮崎市（王楽寺）	S19. 9. 5
2	重文	木造阿弥陀如来及び両脇侍像（三軀）	国富町（万福寺）	S19. 9. 5
3	重文	旧黒木家住宅	宮崎市（県総合博物館）	S48. 2.23
4	重文	旧藤田家住宅	宮崎市（県総合博物館）	S48. 2.23
5	重文	興玉神社内神殿	都城市（興玉神社）	S58. 6. 2
6	重文	紺糸威紫白肩裾胴丸大袖付	都城市（都城歴史資料館）	H 6. 6.28
7	重有	日向の山村生産用具（2,260点）	宮崎市（県総合博物館）	H 5. 4.15
8	重無	山之口の文弥人形	山之口町（麓文弥節人形浄瑠璃資料館）	H 7.12.26
9	史跡	本庄古墳群	国富町	S 9. 8. 9
10	史跡	今町一里塚	都城市	S10.12.24
11	史跡	生目古墳群	宮崎市	S18. 9. 8
12	史跡	蓮ヶ池横穴群	宮崎市	S46. 7.17
13	天	狭野スギ並木	高原町（狭野神社）	T13.12. 9
14	天	関之尾の甕穴	都城市関之尾町	S 3. 2.18
15	天	狭野神社ブッポウソウ繁殖地	高原町（狭野神社）	S 9. 5. 1
16	天	高岡の月知梅	高岡町	S10.12.24
17	天	去川のイチヨウ	高岡町	S10.12.24
18	天	宮崎神宮のオオシラフジ	宮崎市（宮崎神宮）	S26. 6. 9
19	天	瓜生野八幡神社のクスノキ群	宮崎市（瓜生野八幡神社）	S26. 6. 9
20	天	エヒメアヤマ自生南限地帯	小林市	S43. 6.14
21	天	甕岳針葉樹林	えびの市	S44. 8.22
22	天	竹野のホルトノキ	綾町	S52. 2.17

(2) 県指定

番号	種別	名 称	所在地	指定年月日
1	重文	木造弘法大師坐像	熊本県多良木町槻木	S44. 3.20
2	重文	神面	熊本県多良木町槻木	S44. 3.20
3	有文	木造阿弥陀如来座像（一軀）	宮崎市（県総合博物館）	S40. 8.17
4	有文	木造薬師陀如来座像（一軀）	宮崎市（県総合博物館）	S40. 8.17
5	有文	木造薬師如来及び両脇侍像（三軀）	国富町（法華嶽薬師寺）	S40. 8.17
6	有文	須弥壇（一基）	国富町（法華嶽薬師寺）	S40. 8.17
7	有文	朱塗丸盆（四枚）	都城市（郷土館）	S40. 8.17
8	有文	六地藏幢	小林市	S40. 8.17
9	有文	木造阿弥陀如来座像（一軀）	綾町（川中神社）	S46. 6.11
10	有文	米良の民家	宮崎市（県総合博物館）	S52. 4. 1
11	有文	椎葉の民家	宮崎市（県総合博物館）	S52. 4. 1
12	有文	土持文書	宮崎市（県総合博物館）	S58. 1.21
13	有文	東霧島の梵鐘	高崎町（東霧島神社）	S60.12.17
14	有文	木造薬師如来座像（一軀）	国富町（三弓堂）	S61. 3.25
15	有文	木造聖観音菩薩座像（一軀）	国富町（三弓堂）	S61. 3.25
16	有文	男神像及び女神像（四軀）	都城市美川町	S34. 7.10
17	有文	兼喜神社社殿	都城市都島町	H 6.11.28
18	無民	輪太鼓踊	小林市	S37. 5.15
19	無民	バラ太鼓踊	国富町	S37. 5.15
20	無民	祓川神楽	高原町	S44. 4. 1

（凡例）重文：重要文化財 重有：重要有形民俗文化財 無民：無形民俗文化財
 重無：重要無形民俗文化財 重：重要無形文化財 有文：有形文化財
 天：天然記念物

注）2001年版宮崎県観光要覧（平成13年 3月：宮崎県）より。

表2-1(2)

大淀川流域内文化財一覧表

(2) 県指定

番号	種別	名 称	所 在 地	指定年月日
21	無 民	山之口麓文弥節人形浄瑠璃	山之口町	S47. 8. 5
22	無 民	熊 襲 踊	都城市	S47. 9.26
23	無 民	山之口弥五郎どんまつり	山之口町	H 2. 3.27
24	無 民	高 木 の 揚 げ 馬	都城市	H 6. 3.25
25	無 民	花 木 あ げ 馬	山之口町	H 6. 3.25
26	無 民	穂 満 坊 あ げ 馬	高城町	H 6. 3.25
27	無 民	末吉住吉神社の流鏑馬	鹿児島県末吉町二之方住吉	S56. 3.27
28	無 民	末吉町熊野神社の鬼追い	鹿児島県末吉町深川	H 6. 3.16
29	無 民	西 米 良 神 楽	西米良村	H 9. 3.18
30	史 跡	去 川 の 関 跡	高岡町	S 8.12. 5
31	史 跡	刀 工 田 中 国 広 宅 跡	綾町	S 8.12. 5
32	史 跡	本 庄 の 石 仏	国富町	S 8.12. 5
33	史 跡	谷 村 計 介 旧 宅	宮崎市	S 8.12. 5
34	史 跡	何 欽 吉 墓	都城市	S 9. 4.17
35	史 跡	伊 東 塚	小林市	S 9. 4.17
36	史 跡	祝 吉 御 所 跡	都城市	S 9. 4.17
37	史 跡	紙 屋 池 の 原 一 里 塚	野尻町	S11. 7.17
38	史 跡	紙 屋 漆 野 原 一 里 塚	野尻町	S11. 7.17
39	史 跡	石器時代住居跡尾平野洞窟	都城市	S32.12.15
40	史 跡	東 麓 石 窟 仏	野尻町	S32.12.15
41	史 跡	本 田 遺 跡	小林市	S51. 3.26
42	史 跡	赤 江 町 古 墳	宮崎市	S 8.12. 5
43	史 跡	野 尻 町 古 墳	野尻町	S 8.12. 5
44	史 跡	綾 町 古 墳	綾町	S 8.12. 5
45	史 跡	倉 岡 村 古 墳	宮崎市	S 8.12. 5
46	史 跡	都 城 市 古 墳	都城市	S 9. 4.17
47	史 跡	志 和 池 村 古 墳	都城市	S 9. 4.17
48	史 跡	須 木 村 古 墳	須木村	S 9. 4.17
49	史 跡	八 代 村 古 墳	国富町	S 9. 4.17
50	史 跡	高 城 町 古 墳	高城町	S10. 7. 2
51	史 跡	都 城 市 沖 水 古 墳	都城市	S11. 7.17
52	史 跡	山 之 口 村 古 墳	山之口町	S11. 7.17
53	史 跡	木 脇 村 古 墳	国富町	S11. 7.17
54	史 跡	宮 崎 市 大 淀 古 墳	宮崎市	S12. 7. 2
55	史 跡	木 花 村 古 墳	宮崎市	S12. 7. 2
56	史 跡	住 吉 町 古 墳	宮崎市	S19.12.15
57	史 跡	本 庄 町 古 墳	国富町	S19.12.15
58	史 跡	小 林 町 古 墳	小林市	S14. 1.27
59	史 跡	宮 崎 市 下 北 方 古 墳	宮崎市	S14. 4.21
60	史 跡	高 岡 町 古 墳	高岡町	S17. 6.23
61	史 跡	高 崎 町 古 墳	高崎町	S17. 6.23
62	史 跡	生 目 村 古 墳	宮崎市	S19.12.15
63	史 跡	高 原 町 古 墳	高原町	S19.12.15
64	史 跡	瓜 生 野 村 古 墳	宮崎市	S19.12.15
65	史 跡	池 内 横 穴	宮崎市	S47. 5.26

(凡例) 重文：重要文化財

重有：重要有形民俗文化財

無民：無形民俗文化財

重無：重要無形民俗文化財

重：重要無形文化財

有文：有形文化財

天：天然記念物

注) 2001年版宮崎県観光要覧(平成13年 3月：宮崎県)より。

表2-1(3)

大淀川流域内文化財一覧表

(2) 県指定

番号	種別	名 称	所 在 地	指定年月日
66	史 跡	船 塚 古 墳	高原町	S52. 4. 1
67	天	大 師 の コ ウ ヤ マ キ	熊本県多良木町槻木	S44. 3.20
68	天	溝 ノ 口 洞 穴	鹿児島県財部町大塚厚	S30. 1. 4
69	名 勝	須 木 の 滝	須木村	S 8.12. 5
70	天	森 永 の 化 石 群	国富町	S12. 7. 2
71	天	アカウミガメ及びその産卵地	宮崎市(延岡市, 日南市)	S55. 6.24
72	天	綾 の イ チ ノ ガ シ	綾町	S60. 1. 4
73	天	天 林 寺 の オ ハ ツ キ チ ョ ウ	宮崎市(天林寺境内)	S60.12.17
74	天	山 田 の イ チ ョ ウ	山田町	S14. 1.27

(凡例) 重文: 重要文化財

重有: 重要有形民俗文化財

無民: 無形民俗文化財

重無: 重要無形民俗文化財

重: 重要無形文化財

有文: 有形文化財

天: 天然記念物

注) 2001年版宮崎県観光要覧(平成13年 3月: 宮崎県)より。



高岡町去川の大イチョウ(国指定天然記念物)

樹齢800年、幹周約10m、高さ約41mの古木で、島津家初代忠久公が薩摩街道のこの地に植えたといわれている。



興玉神社内神殿(国指定重要文化財)

宮崎県最古の建造物であり、その様式は、禅宗様(唐様)といい、禅宗とともに寺院建築の新様式として、中国大陆から鎌倉時代に伝来し、日本全土に広まっている。



蓮ヶ池横穴群(国指定史跡)

市街北方の国道10号沿い、小池の散在する丘陵地の斜面にある。6,7世紀ごろの築造と見られる横穴古墳が、現在82基確認されており、この地方の古代を知るうえでの貴重な史料となっている。

2-4 自然公園等の指定状況

大淀川流域は、自然環境に恵まれた地域が多く、図2-2～3に示すように自然公園及び鳥獣保護区域が設定されている。

表2-2 大淀川流域に係る規制状況一覧表

関係するまたは予想される法令等の規制状況リスト		
規制項目	関連法令	概 要
霧島屋久国立公園	自 然 公 園 法	昭和9年3月16日指定 12,870(ha)
九州中央山地 国 定 公 園	自 然 公 園 法	昭和57年5月15日指定 12,480(ha)
わ っ つか 県 立 自 然 公 園	県自然公園条例	昭和36年3月31日指定 4,700(ha)
母智丘・関之尾 県 立 自 然 公 園	県自然公園条例	昭和33年9月1日指定 560(ha)
都 市 計 画 区 域	都 市 計 画 法	宮崎市、都城市、小林市、高崎町、高城町、三股町、山田町、山之口町、高原町、綾町、国富町、高岡町、末吉町、財部町の3市11町で指定されている。
鳥 獣 保 護 区	鳥 獣 保 護 及 び 狩 猟 関 係 法 律	宮崎市、都城市、小林市、えびの市、国分市、高原町、綾町、高岡町、国富町、山之口町、高城町、野尻町、高崎町、山田町、三股町、財部町、末吉町、西米良町、多良木町、須木村の5市14町1村で指定されている。
河 川 区 域 等	河 川 法	

注）鳥獣保護区は宮崎県鳥獣保護区等位置図（平成12年度）より。



図2-2 自然公園位置図

表2-3 自然公園

種別	公園名	流域内 関係市町村	指定年月日	備考
国立・国定公園	霧島屋久国立公園	えびの市、小林市 都城市、高原町	S 9. 3. 16 特別保護地区 S42. 3. 23	25座の集成火山、暖帯多雨林 ミヤマキリシマの大群落。
	九州中央山地 国定公園	須木村、綾町 西米良村	S57. 5. 15	原生林のすぐれた自然景観と 豊かな動植物、歴史的文化的財 資源に富む。
県立自然公園	母智丘・関之尾 県立自然公園	都城市	S33. 9. 1 特別地域 S46. 2. 5	滝と竪穴、桜並木
	わにつか 県立自然公園	宮崎市、田野町 三股町、山之口町	S36. 3. 31 獣道の特別地域 S41. 12. 24	山頂眺望、溪谷、滝



霧島屋久国立公園



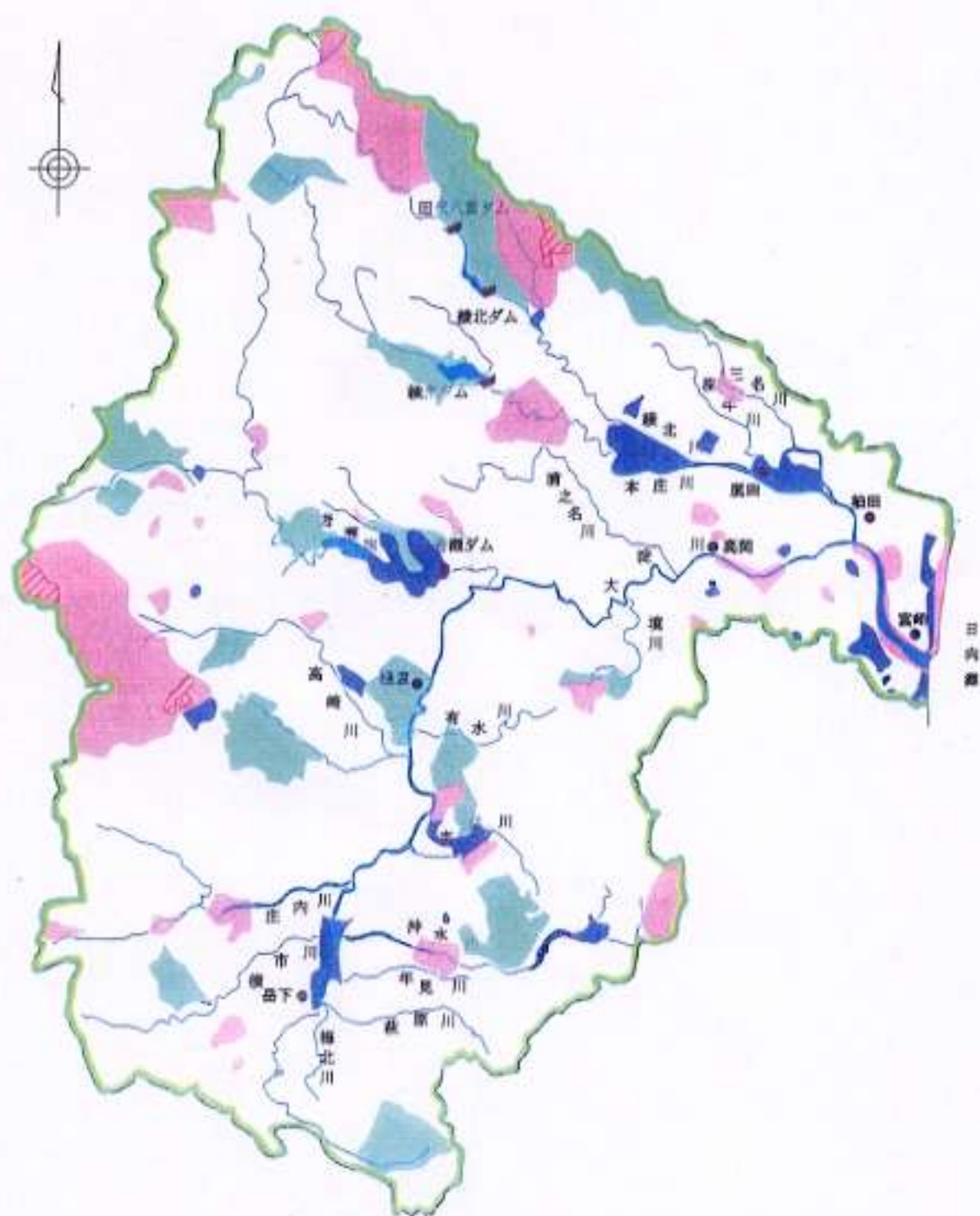
九州中央山地国定公園



母智丘・関之尾県立自然公園



わにつか県立自然公園



注) 平成12年度鳥獣保護区等位置図より

凡 例	
	鳥 獣 保 護 区
	特 別 保 護 地 区
	休 養 区
	銃 弾 禁 止 区 域

図2-3 鳥獣保護区指定区域図

3. 流域の社会状況

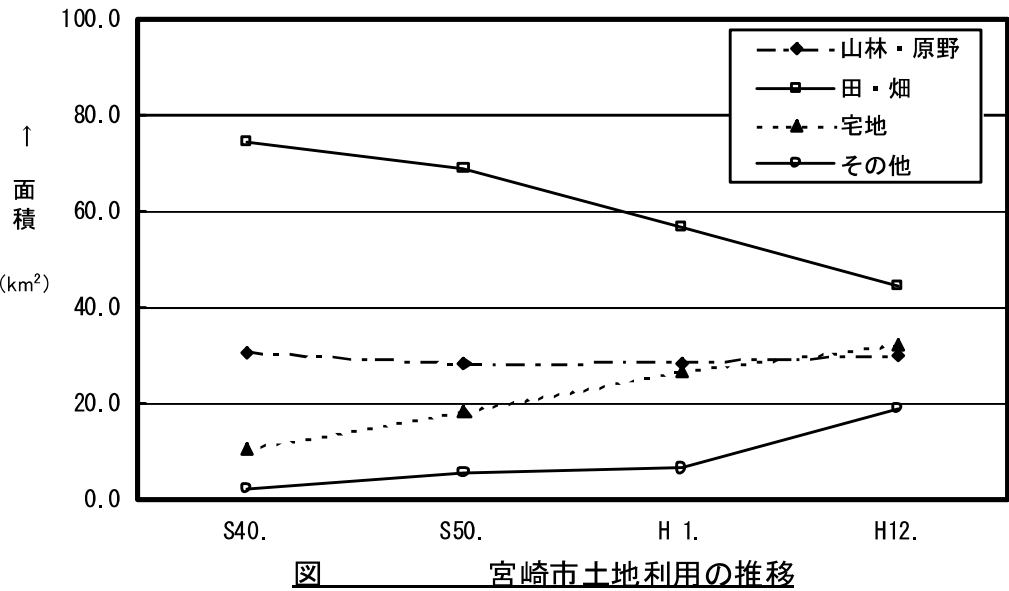
3-1. 土地利用

大淀川流域2,230km²のうち山地面積は67.3%を占め、自然公園も218.7km²（9.9%）も占めている。

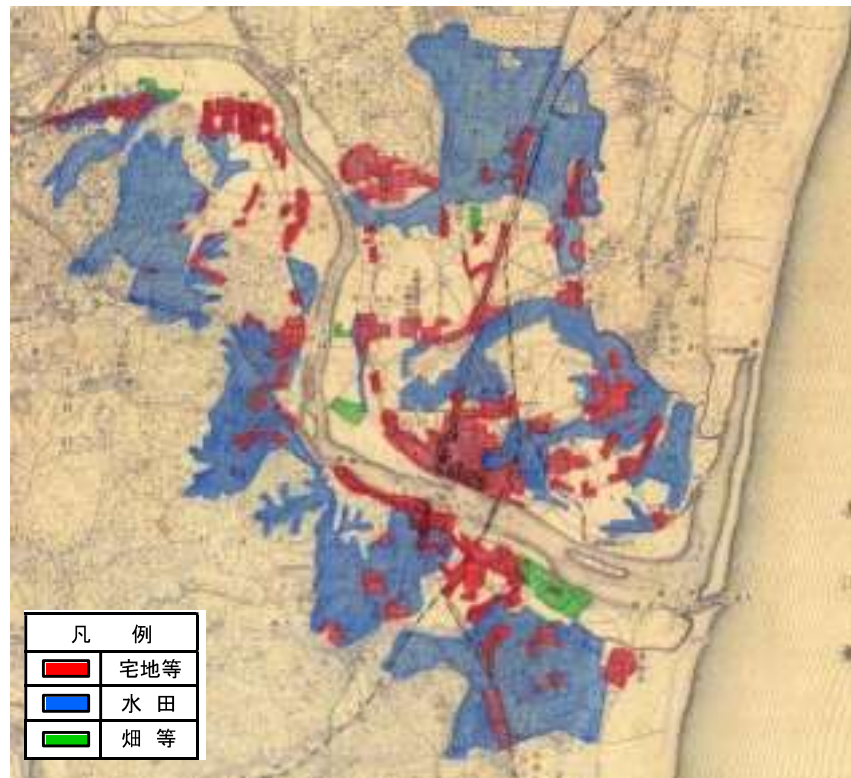
土地利用としては農業、森林地域が広く、宅地化は上流部都城、下流部宮崎市に集中している。

表 宮崎市土地利用(民有地)面積の推移 単位:km ²				
年 項 目	昭和40年	昭和50年	平成元年	平成12年
山林・原野	30.5	(0.92) 28.0	(0.93) 28.4	(0.98) 29.9
田・畑	74.4	(0.92) 68.6	(0.76) 56.5	(0.60) 44.6
宅 地	10.3	(1.75) 18.0	(2.56) 26.4	(3.11) 32.0
そ の 他	2.1	(2.62) 5.5	(3.00) 6.3	(8.90) 18.7
総 面 積	285.9	286.0	285.9	287.0

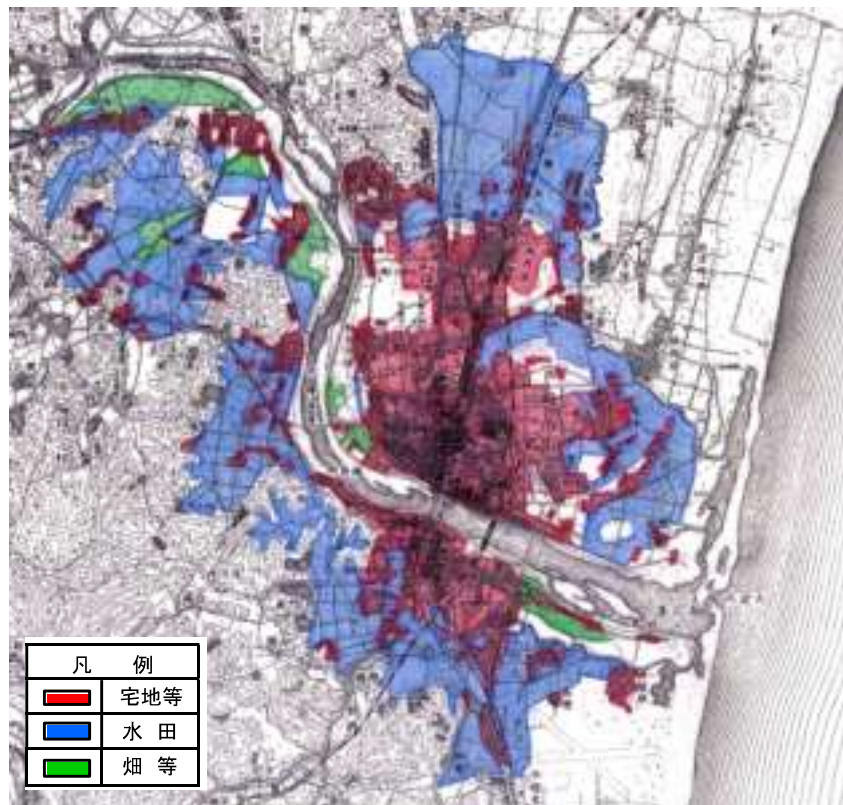
注) () は昭和40年に対する割合
総面積以外は、固定資産税課税に係る評価総地積(民有地面積)
(出典) 宮崎県統計年鑑



〔大正6年頃〕

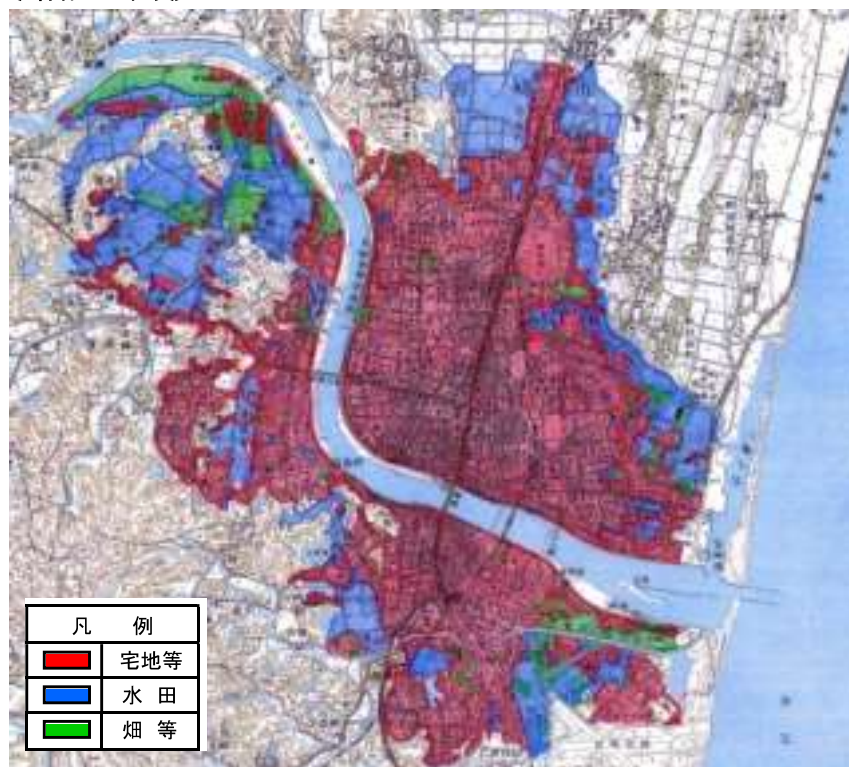


〔昭和29年頃〕

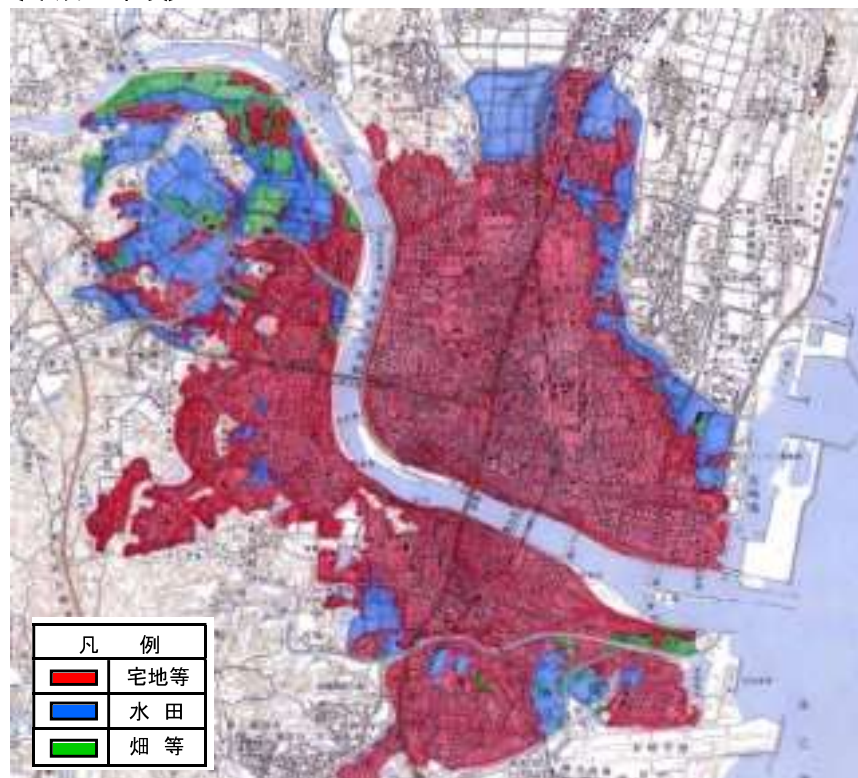


土地利用の経年変化図（宮崎市）

〔昭和56年頃〕



〔平成12年頃〕

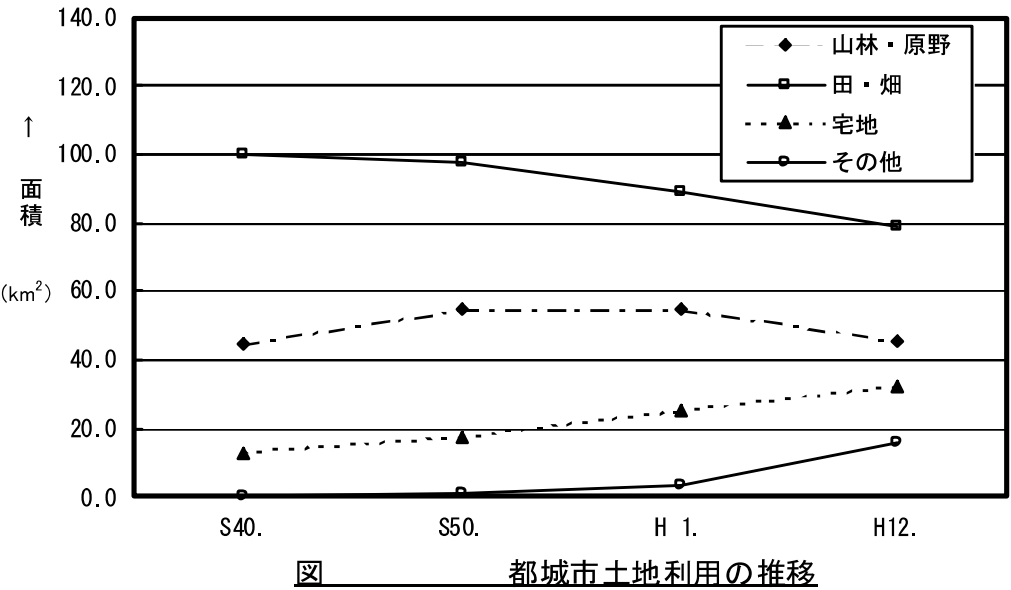


土地利用の経年変化図（宮崎市）

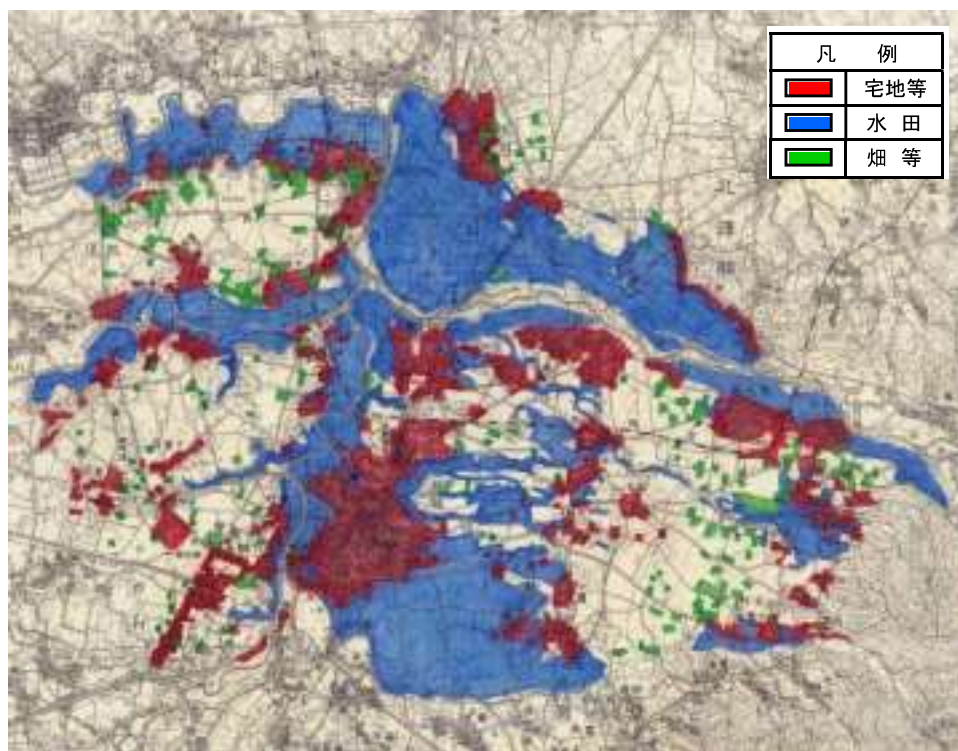
表 都城市土地利用(民有地)面積の推移 単位: km²

年 項 目	昭和40年	昭和50年	平成元年	平成12年
山林・原野	5.6 <44.3>	(1.23) 54.5	(1.23) 54.5	(1.02) 45.4
田・畑	58.3 <100.3>	(0.98) 97.9	(0.89) 89.1	(0.79) 79.2
宅 地	9.9 <12.9>	(1.36) 17.5	(1.95) 25.1	(2.51) 32.4
そ の 他	0.1 <0.1>	(8.00) 0.8	(34.00) 3.4	(156.00) 15.6
総 面 積	231.4 <306.7>	306.7	306.7	306.2

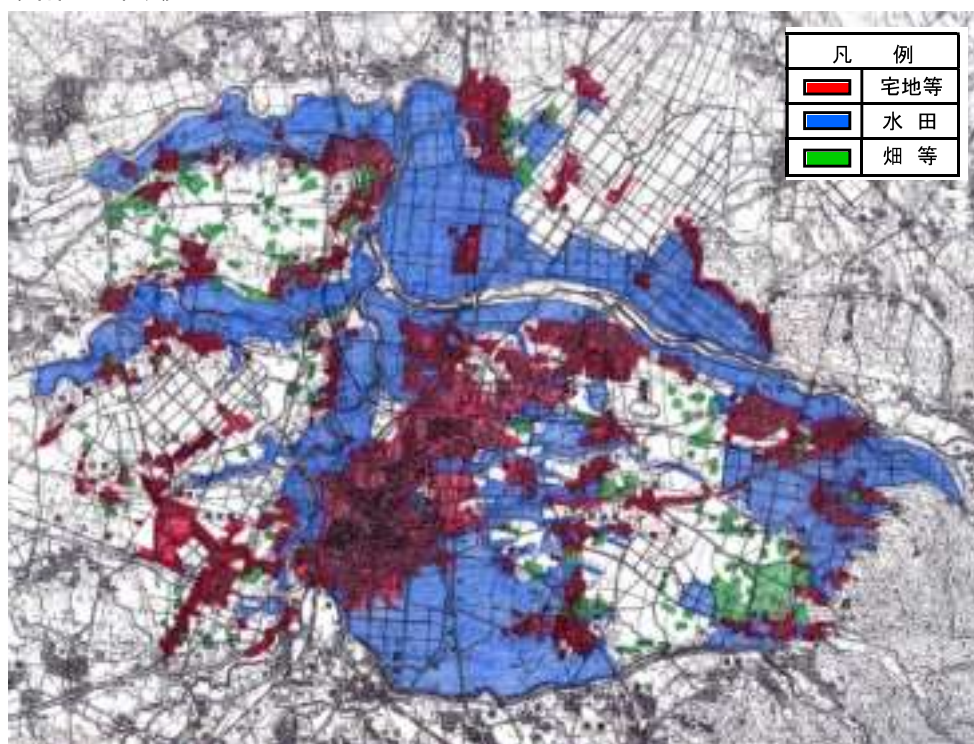
注) 1. ()は昭和40年に対する割合
2. 総面積以外は、固定資産税課税に係る評価総地積(民有地面積)
昭和40年は、中郷村, 荘内町合併前であることによる。
3. 昭和40年< >値は、中郷村、荘内町を合わせた値。
(出典) 宮崎県統計年鑑



〔大正6年頃〕

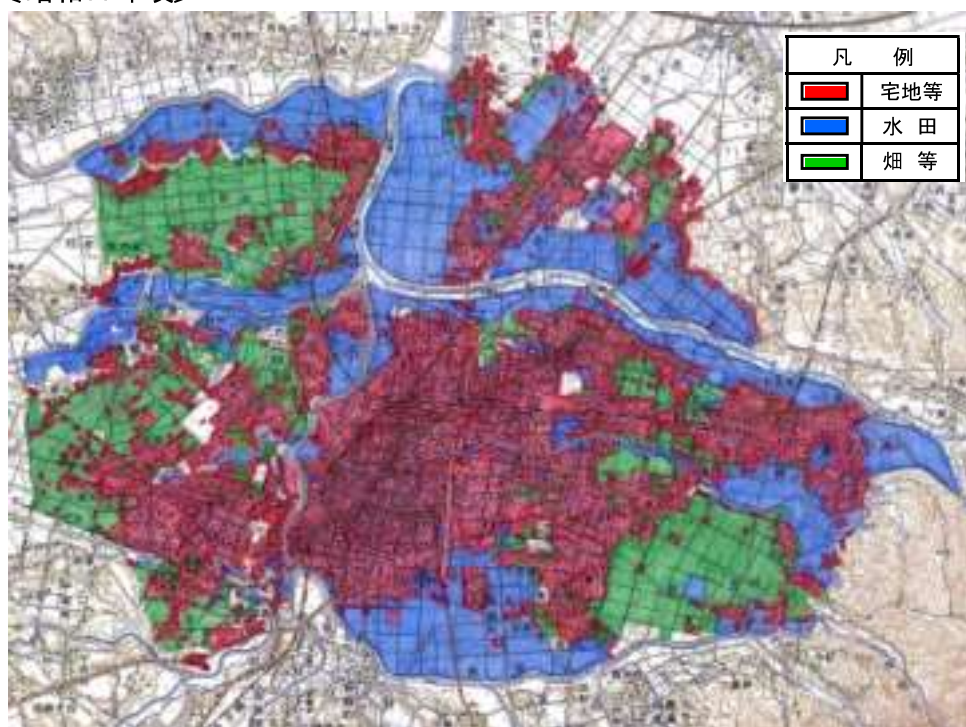


〔昭和29年頃〕

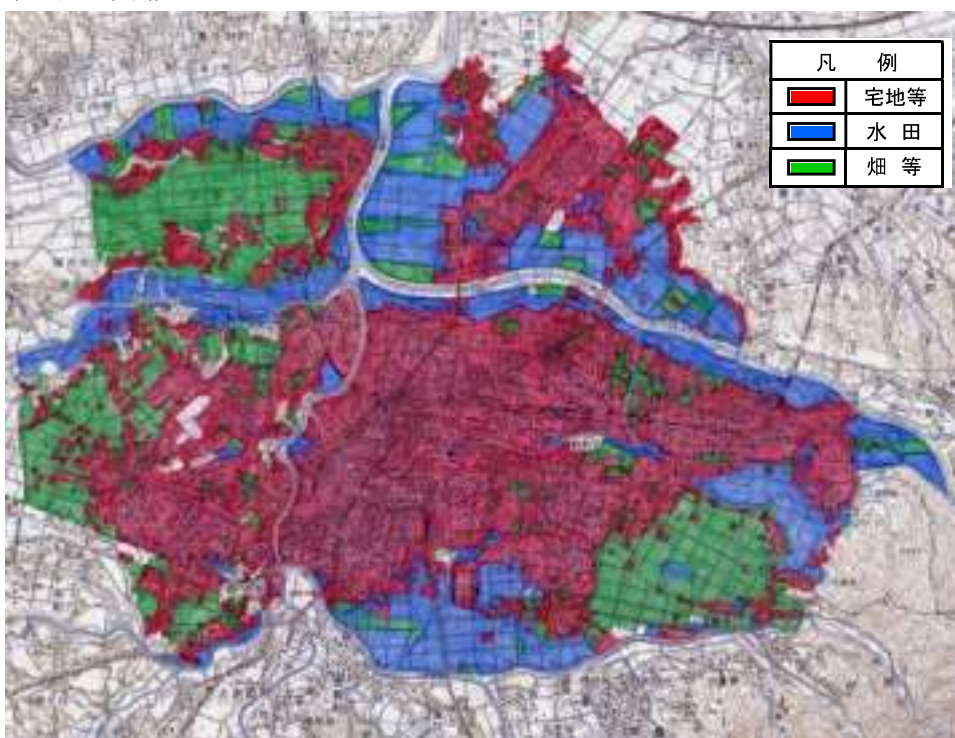


土地利用の経年変化図（都城市）

〔昭和57年頃〕



〔平成6年頃〕



土地 利用の 経 年 変 化 図 (都 城 市)

3-2 人口

大淀川流域内の人口は約59万人（平成2年調査）で、人口密度は約260人／km²である。
特に宮崎市の人口の増加率は高く、昭和40年（現工事实施基本計画策定年）からは約65%となっている。

表 流域内主要都市人口の推移

年次 区分	昭和35年 (人)	昭和40年 (人)	昭和45年 (人)	昭和50年 (人)	昭和55年 (人)	昭和60年 (人)	平成2年 (人)	平成12年 (人)	人口密度 (人/km ²)
流域内	434,708	436,968	—	509,101	567,377	566,554	585,767	—	
宮崎市	166,360	182,869	202,861	234,347	264,855	279,114	287,352	305,755	1,068
都城市	121,497	118,582	114,799	118,289	129,009	132,098	130,153	131,922	431
小林市	43,878	41,922	38,674	38,325	40,033	40,976	41,048	40,346	175

注）面積：宮崎市286.4km²、都城市306.2km²、小林市230.7km²（県統計年鑑）
人口はS35～55年：国勢調査、S60～：県統計年鑑より、H12値は官報告示（H13.8.22）より
また、流域内人口は河川現況調査。

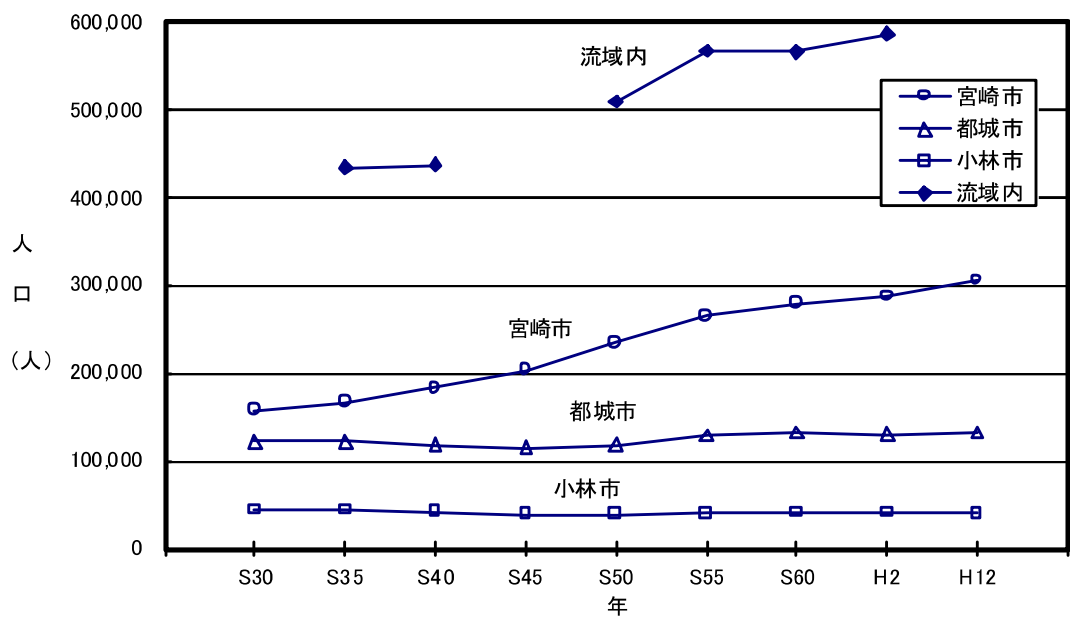


図 宮崎市、都城市、小林市の人口推移図

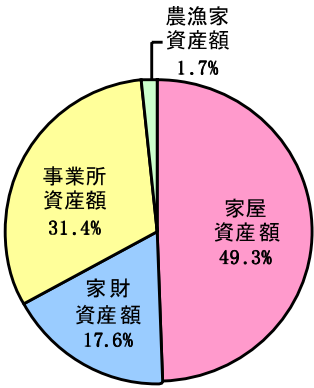
3-3 産業経済

流域内の総資産額は平成2年時点で約5兆5579億円で、その約半分は家屋資産が占めている。

流域内資産額 (単位:百万円)

家屋 資産額	家財 資産額	事業所 資産額	農漁家 資産額	合計
2,741,817 (49.3)	978,915 (17.6)	1,745,875 (31.4)	91,285 (1.7)	5,557,892 (100.0)

注) () 書きは合計に対する比率
出典：河川現況調査（基準年：平成2年）



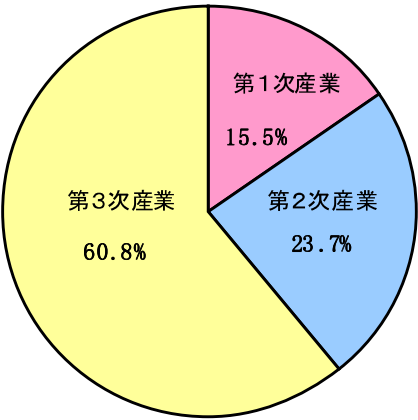
流域内資産の構成

表 就業者の産業構成

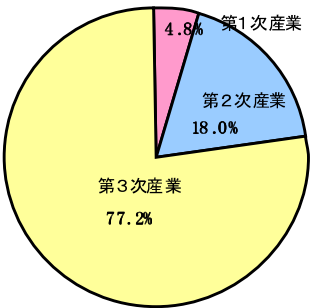
項 目	大淀川流域		宮 崎 市		都 城 市		宮 崎 県	
	就業者数	割合(%)	就業者数	割合(%)	就業者数	割合(%)	就業者数	割合(%)
第1次産業	43,752	15.5	7,157	4.8	6,961	10.9	87,219	15.0
第2次産業	67,126	23.7	26,836	18.0	18,483	28.8	154,765	26.6
第3次産業	171,863	60.8	114,908	77.2	38,622	60.3	340,121	58.4

(出典) 大淀川流域…河川現況調査(基準年 平成2年)
宮崎市、都城市、宮崎県…平成12年度 宮崎県統計年鑑(基準年 平成7年)

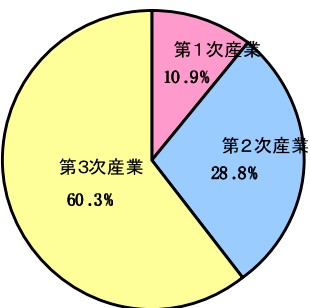
図 産 業 構 成 図



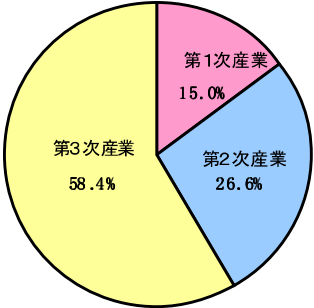
大淀川流域内



宮 崎 市



都 城 市



宮 崎 県

3-4 交通

大淀川流域の道路は、高規格幹線道路で宮崎からえびのへ至る九州縦貫自動車道宮崎線が昭和56年10月に開通し、さらにえびの～人吉間の開通により、九州各地はもちろん、本州、四国とも結ぶ交通の大動脈として期待される。

また、国道は北九州市から九州の東側を通り、宮崎市、都城市を経て鹿児島市へ至る国道10号を初め、熊本県人吉市を起点とし都城市へ至る国道221号、小林市を起点とし鹿児島県霧島町を経て隼人町へ至る223号、熊本県水俣市を起点とし小林市を経て高岡町へ至る268号、鹿児島県指宿市を起点とし宮崎市へ至る269号等、九州南東部の主要な道路が流域内を通過している。

鉄道は北九州と鹿児島を結ぶJR日豊本線が流域を横断し、さらに、途中都城からJR吉都線が分岐し、えびの方向へ延びている。

日豊本線は大分市、延岡市、宮崎市等の主要都市を結ぶ九州東側の幹線鉄道であり、地域の発展に重要な役割を果たしている。一方、宮崎県内の重要港湾である宮崎港、空の玄関口である宮崎空港は近年、JRの乗り入れや施設の改築が図られ、利用状況を見ても順調な伸びを示すなど、物資等の輸送に大きな役割を果たしている。

また、これからの道路整備として、拠点都市間の1時間構想や宮崎都市圏における宮崎環状道路、さらには都城市から鹿児島県の中核国際港湾志布志港とを結ぶ地域高規格道路等の広域的な整備により、当流域における産業や地域の発展について、今後大いに期待できるものと考えられる。

3-5 将来構想

宮崎県の県都及び第2の都市を抱える当流域は、産業、経済、教育、文化等多くの面で県下の牽引的な役割を担い、広い分野で拠点的な役割を果たしている。

また、県の長期計画においても地域別圏域を設定し、圏域の特性を生かした地域づくりや圏域内外との交流連携等により、各地域の資源や魅力を共有し、特色ある県土空間の創造を進めている。



大淀川流域交通体系図



4. 水害と治水事業の沿革

4-1. 既往洪水の概要

大淀川流域の年雨量は約2,800mm程度であり、洪水の原因は8月～9月に発生する台風に伴う降雨によるものが多い。

大淀川の主要な洪水は昭和29年9月洪水、昭和57年8月洪水、平成5年8月洪水、平成9年9月洪水等であるが、昭和29年9月洪水は計画流量の改定の契機となった洪水である。

(1) 明治13年(1880年)8月3～5日洪水

8月3日から降り出した雨は、4日から5日には暴風雨となり、大洪水を引き起こした。

その状況について公文録(県から政府に出した報告書)に、以下のように記述されている。

「増水の高さ2丈(6m)又は3丈(9m)あまりにもなって、堤防や道路の破壊、橋の流失破損、田畑の荒損、家屋の流失等、この数十年来まだ見たこともないほどの大水害で、人や牛馬の溺死もでた。」

(「大淀川の歴史」より)

(2) 大正元年(1912年)10月2日洪水

10月2日の台風による暴風雨は、県内に死者44人、負傷者19人、行方不明者3人、家屋の全壊822戸、半壊588戸、家屋の浸水9269戸という被害をもたらした。

(「宮崎県災異史」より)



大正中期ごろの大淀川の氾濫(旭通り)

(3) 昭和29年(1954年)9月10～13日洪水

台風12号の接近により、9月10日より降り始めた雨は12～13日に豪雨となり、総雨量は平野部で250～300mm、山地部で700～1000mmとなった。

河川の水位は12日夕刻、各地点共指定水位に到り、13日早朝、各々警戒水位に達するという異常な増水記録を示し、高岡町を始めとする中流各地域、及び下流の宮崎市内には13日12時～13時に沿岸住民に対する避難命令が発令された。

この大洪水によって、浦之名川合流点付近、及び高岡町狩野の一部は濁流にのまれ、大丸橋右岸取付道路約20mも13日18時頃の流失、下流では高松橋が13日18時頃流失、小戸橋も高松橋の流失橋材の為流失した。

宮崎県下の被害状況は、死者51人、負傷者62人、行方不明者13人、流失全壊家屋614戸、半壊683戸、床上浸水5906戸、床下浸水8228戸であった。(被害数は宮崎県災異史より)



提供：宮崎日日新聞社

<昭和29年9月洪水>



右岸大塚町付近の浸水状況（宮崎市）



流出寸前の赤星橋
（都城市）

源野橋の流失
（都城市・横市川）



<昭和29年9月洪水>



軒先まで浸水した家
(高岡町)

流出した高松橋(宮崎市)



流出する二巖寺橋(都城市)

(4) 昭和57年 (1982年) 8月25～27日洪水

台風13号が宮崎市付近を通過し、日向灘を北上したため、宮崎県下全域は暴風雨域に入り、25日～27日にかけて各地で大雨を降らした。

大淀川上流の三股で51mm、青井岳45mm、本庄川上流の田代八重42mm、須木44mmの時間雨量を記録し、総雨量も三股642mm、青井岳492mm、田代八重558mm、須木439mmとなった。

河川の水位も、26日22時には宮崎観測所で警戒水位3.70mを突破し、27日6時には最高水位5.40mを記録し、支川本庄川の嵐田観測所でも警戒水位3.60mを突破し、27日4時には最高水位5.24mを記録した。

流域では人的被害はなかったものの、家屋半壊18戸、床上浸水264戸、床下浸水463戸におんだ。



提供：宮崎日日新聞社

<昭和57年8月洪水>



下小松地区
(8/000右岸付近)
浸水状況

下小松地区
(8/000右岸付近)
浸水状況



下小松地区
(8/000右岸付近)
浸水状況

(5) 平成 5 年 (1993 年) 8 月 1 ～ 2 日洪水

前線の活発化に伴い、九州南部地方は大雨となった。大淀川流域では7月31日1時ごろより降り出した雨が断続的に降り続き、1時間に岳下で62mm、青井岳63mm、樋渡69mm降ったのを始め、8月1日の16時から17時の1時間に83mmを最高に流域全般で大雨が降り続いた。また、総雨量でも巢之浦の699mmを最高に、樋渡605mm、四家534mm、御池661mm等の降雨があり、最大3時間雨量でも樋渡の175mmを最高に、比曽木野166mm、御池152mmを記録した。

今回の8.1豪雨による降雨は流域全般にわたり大雨となり、各水位観測所で警戒水位を越す出水となった。

この洪水による被害は死者1人、負傷者2人、家屋の全壊12戸、半壊2戸、床上浸水771戸、床下浸水789戸におよんだ。



提供：宮崎日日新聞社

<平成5年8月洪水>



青柳川流域
大塚町
高松橋方向を望む
(PM15:00)



小松地区

(6) 平成 9 年 (1997 年) 9 月 12～16 日洪水

台風第19号の接近に伴い宮崎県全域が大雨となった。

大淀川流域では9月14日1時頃より降り出した雨が断続的に降り続き、16日1時頃より雨は強まり、1時間に末吉で27mm、比曾木野で35mm、青井岳で36mm、また、三股では16日2時から3時の間に69mmを最高に大淀川上流域全般で大雨が降った。また、3時間雨量でも巢之浦137mm、霧島176mm、三股179mmを記録し、総雨量では青井岳515mm、槻木469mm、霧島836mm、三股873mmを記録した。

この雨により、大淀川全川で警戒水位を突破し、最高水位が岳下で5.31m、高岡で7.08m、柏田で8.22mと過去最高の水位を記録した。

関係市町村の被害は、死者2人、負傷者3人、家屋の全・半壊25戸、床上・床下浸水は985戸に及んだ。



提供：宮崎日日新聞社・西日本新聞社

<平成9年9月洪水>



大塚地区

福島地区



高岡地区

<平成9年9月洪水>



高岡小山田地区



瓜田地区

表4-1(1) 既往洪水一覧表

洪水年	出水概要	水文状況			被害状況
		日雨量	最高水位	流量	
S11年 7月22～23日 (暴風雨)	台風が九州西部の海上を通過した影響で宮崎県では22日朝から23日にかけて強い雨が断続的に続いた。県下の雨量は、西米良から都城盆地にかけて最も多く400mmを記録し、宮崎では最高水位5.58mに達した。大淀川では高松橋が流出し、本町橋が破損する等、流域内で大きな被害が生じた。	柏田上流域 266mm 嵐田上流域 296mm	宮崎 5.58m 柏田 6.00m 高岡 6.60m 嵐田 6.10m	柏田 不明 嵐田 不明	※県下の被害 死者 3名 負傷者 2名 家屋全壊 6戸 家屋半壊 7戸 家屋流出 7戸 家屋浸水 5173戸
S18年 9月18～20日 (台風26号)	台風26号が宮崎県に接近して、日向灘を北上したため、18日昼近く頃から20日にかけて各地に大雨をもたらした。各地点の雨量は都城447mm、宮崎494mmを記録し、流域では莫大な被害が生じた	柏田上流域 342mm 嵐田上流域 303mm	高岡 7.69m 嵐田 6.28m	柏田 不明 嵐田 不明	※県下の被害 死者 114名 負傷者 161名 行方不明 1名 家屋全壊 567戸 家屋半壊 1165戸 家屋流出 508戸 床上浸水 9361戸
S24年 8月14～16日 (台風9号)	台風9号が九州南部に接近し、都城盆地を通過したため、宮崎県では15日夜半頃から風雨が次第に強くなり、14日より降り始めた降雨は都城435mm、須木755mmを記録した。台風9号は九州南部に上陸した後、非常に遅い速度で進行したため、大淀川では風雨による被害が甚大であった。	柏田上流域 253mm 嵐田上流域 346mm	高岡 6.02m	柏田 不明 嵐田 不明	※県下の被害 死者 7名 負傷者 15名
S29年 9月10～13日 (台風12号)	台風12号の接近によって、宮崎県では11日午後から風雨が次第に強くなった。9月10日より降り始めた降雨は都城で679mmを記録し、各地点の水位は13日早朝に警戒水位に達した。大淀川では増水のため、小戸橋、高松橋が流出し、ところどころで築堤が決壊して、流域では多大な被害が生じた。	柏田上流域 253mm 嵐田上流域 308mm	岳下 4.55m 高岡 7.77m 宮崎 6.40m 嵐田 5.52m	柏田 不明 嵐田 2399m ³ /s	死者 5名 負傷者 10名 家屋全壊 72戸 家屋半壊 215戸 家屋流出 28戸 床上浸水 3173戸 床下浸水 5303戸
S46年 8月26～30日 (台風23号)	台風23号による降雨は宮崎県の南部では27日早朝から始まり、30日に台風が通過後まで続いた。尾鈴山系及び鰐塚山系で1000mmを越える豪雨になった。上流岳下で29日18時に4.45m、中流高岡で29日23時に5.20m、下流宮崎で30日3時に5.50m、支川本庄川嵐田で30日4時に4.32mの最高水位を記録し、警戒水位を大きく上回った。	柏田上流域 230mm 嵐田上流域 414mm	岳下 4.45m 乙房 6.60m 高岡 5.40m 柏田 7.59m 宮崎 5.50m 嵐田 4.32m	柏田 5353m ³ /s 嵐田 2123m ³ /s	負傷者 4名 家屋全壊 4戸 家屋半壊 6戸 床上浸水 294戸 床下浸水 1083戸
S57年 8月24～27日 (台風13号)	台風13号が宮崎市付近を通過し、日向灘を北上したため、県下全域が暴風雨域に入り、25～27日にかけて各地に大雨を降らした。大淀川上流の三股51mm、青井岳45mmの時間雨量を記録し、総雨量も三股642mm、青井岳492mmを記録した。大淀川上流地区の水位は、26日15時頃から次第に上昇し始め26日22時には最高水位4.50mを記録した。支川本庄川の嵐田でも、27日4時には最高水位5.24mを記録した。	柏田上流域 285mm 嵐田上流域 383mm	岳下 4.50m 乙房 6.66m 樋渡 8.75m 高岡 6.36m 柏田 8.13m 嵐田 5.24m	柏田 7136m ³ /s 嵐田 2243m ³ /s	家屋半壊 18戸 床上浸水 264戸 床下浸水 463戸

表4－1(2) 既 往 洪 水 一 覧 表

洪水年	出水概要	水文状況			被害状況	
		日雨量	最高水位	流量		
H 1年 7月24～ 8月3日 (台風11号)	台風11号が九州の南部に上陸し、西部海上を通過したため、台風をとりまく東側の非常に強い雨雲が県内に入ってきた。27日午後から次第に雨脚が強まり28日0時から9時までに鰐塚山272mm、都城232mm、宮崎200mmを記録する豪雨となった。大淀川上流の水位は27日22時頃から次第に上昇し始め、岳下では28日4時30分に警戒水位を突破し、28日8時に最高水位4.45mを記録した。また、支川本庄川の嵐田では28日3時に警戒水位を突破し、28日8時に最高水位5.41mを記録した。	柏田上流域 292mm 嵐田上流域 383mm	岳下 4.44m 乙房 7.14m 樋渡 8.40m 高岡 5.97m 柏田 7.74m 嵐田 5.41m	柏田 6123m ³ /s 嵐田 2365m ³ /s	家屋半壊 62戸 床上浸水 79戸 床下浸水 323戸	
H 2年 9月27～29日 (台風20号)	台風20号が九州の南部をかすめて日向灘を北上したため、強雨域が県の中・南部に広がり、時間雨量は宮崎で18時に68mmを最強に、1時間20～60mmの強雨が6～7時間続いた。大淀川上流の水位は9月29日13時頃から次第に上昇し始め、岳下では29日19時には警戒水位を突破、29日19時には最高水位4.91mを記録、高岡でも29日17時には警戒水位を突破し、21時最高水位7.17mを記録した。	柏田上流域 183mm 嵐田上流域 122mm	岳下 4.91m 乙房 7.49m 樋渡 9.61m 高岡 7.17m 柏田 7.75m 嵐田 4.21m	柏田 6254m ³ /s 嵐田 961m ³ /s	行方不明者 1名 負傷者 5名 家屋全壊 2戸 家屋半壊 57戸 床上浸水 1187戸 床下浸水 1908戸	
H 5年 7月31日 ～8月2日 (前線)	前線の活発化に伴い、九州南部地方では大雨となった。大淀川流域では7月31日1時頃より降り出した雨が断続的に降り続き、1時間に岳下で62mm、青井岳63mm、樋渡69mm降ったのを始め、8月1日の16時から17時の1時間に83mmを最高に、流域全般で大雨が降り続いた。また、総雨量でも県ノ浦の699mmを最高に、樋渡605mm、四家534mm、御池661mm等の降雨があり、最大3時間雨量でも樋渡の175mmを最高に比曽木野166mm、御池152mmを記録した。今回の8.1豪雨による降雨は流域全般にわたり大雨となり、各水位観測所で警戒水位を越す出水となった。	柏田上流域 245mm 嵐田上流域 253mm	岳下 4.90m 乙房 6.55m 樋渡 9.67m 高岡 7.24m 柏田 8.10m 嵐田 4.45m	柏田 7016m ³ /s 嵐田 1459m ³ /s	死者 1名 負傷者 2名 家屋全壊 12戸 家屋半壊 2戸 床上浸水 771戸 床下浸水 784戸	
H 9年 9月14～16日 (台風19号)	台風19号の北上に伴い、宮崎県全域が大雨となった。大淀川流域では9月14日1時頃より降り出した雨が断続的に降り続き、16日1時頃より雨は強まり、総雨量では青井岳515mm、槻木469mm、霧島836mm、三股873mmを記録した。今回の台風19号による豪雨による降雨は、大淀川上流域を中心として大雨となり、岳下、高岡、宮崎、嵐田のすべての基準地点で警戒水位を大幅に越す大出水となった。	柏田上流域 249mm 嵐田上流域 273mm	岳下 5.28m 乙房 7.58m 樋渡 9.90m 高岡 7.07m 柏田 8.21m 嵐田 5.23m	柏田 6875m ³ /s 嵐田 1921m ³ /s	死者 2名 負傷者 3名 家屋全壊 1戸 家屋半壊 24戸 床上浸水 401戸 床下浸水 584戸	

4-2 治水事業の沿革

大淀川における明治以前の治水事業は、舟路維持をかねて下流部を中心にごく僅か行われたが、その後明治・大正にかけてもみるべき事業はなかった。

本格的な改修工事は昭和2年に直轄事業として着手したことに始まる。

昭和2年に着手した第一次工事は本庄川合流点下流で計画高水流量を $5,500\text{m}^3/\text{s}$ とするものであったが、相次ぐ戦争により予定どおりの進行がみられず、昭和18年9月の直轄事業着手以降最大の洪水により大災害を被った。

第二次工事は昭和18年9月の洪水をきっかけとして、都城市を中心とした上流域の直轄改修区域を追加するとともに、従来の築堤に加え下流部に導流堤及び突堤を施工した。

昭和28年に全川にわたる計画の再検討を行い、計画高水流量を宮崎地点で $7,000\text{m}^3/\text{s}$ 及び樋渡地点で $4,000\text{m}^3/\text{s}$ とそれぞれ改定した。その後の昭和28年西日本を襲った洪水を契機に綾南（昭和33年竣工）、綾北（昭和35年竣工）の両多目的ダムを建設などの第三次工事を行った。

昭和39年に着手した第四次工事は昭和29年8月及び9月の相次ぐ台風の来襲により、甚大な被害が発生したことにより、宮崎地点における基本高水のピーク流量を $7,500\text{m}^3/\text{s}$ とし、このうち既設2ダムに加え新たに岩瀬ダムを加え、計画高水流量を $7,000\text{m}^3/\text{s}$ とし、捷水路の施工及び水衝部への護岸の設置に着手した。

この後、新河川法の施行により、第四次工事を踏襲する形で昭和40年4月に工事実施基本計画が策定された。

この計画に基づき、岩瀬ダムの建設（昭和42年竣工）及び築堤を中心とした改修を進め、現在に至っている。

5. 水利用の現状

5-1 水利用の現状

1) 発電

大淀川の発電事業は、大正2年11月、大淀川支川岩瀬川水系に200kW（現在廃止）の高原発電所を設けたのが最初で、その後、大正15年1月に大淀川第一発電所、昭和3年に野尻発電所、昭和7年には、大淀川第二発電所と続いて発電所が建設された。

その後発電所の建設はなく、戦後、昭和33年綾第一南発電所、昭和34年綾第二発電所が綾川総合開発の一環として建設された。さらに、昭和42年7月には宮崎県により、高さ55.5mの他目的の岩瀬ダムが完成した。

現在における発電所数は12ヶ所にもものぼる。使用水量の総計は最大時約460m³/s、常時約100m³/s、最大出力は約24万kWである。

表5-1 発 電 所 一 覧 表

河川名	発電所名	水利用者	発電水量（m ³ /s）		出力（kW）	
			最大	常時	最大	最小
大 淀 川	大淀川第一	九 電	165.00	26.83	63,343	7,900
	大淀川第二	〃	149.48	37.06	81,276	17,340
本 庄 川 （綾北川含）	南	〃	1.81	0.25	595	38
	綾第一北	宮崎県	14.00	2.83	13,390	1,100
	綾第一南	〃	10.00	2.70	14,876	2,300
	綾第二	〃	26.00	5.26	32,189	5,300
	田代八重	〃	14.00	2.51	7,038	0
岩 瀬 川	野 尻	九 電	5.56	3.75	1,230	670
	岩 瀬 川	宮崎県	50.00	12.89	21,389	3,700
	猿 瀬	〃	22.00	8.17		
そ の 他	溝 之 口	九 電	1.11	0.93	320	190
	駒	山田町	2.66	1.82	625	290
計	—	—	461.62	105.00	236,274	38,828

出典）水利権一覧表（宮崎工事事務所 平成13年8月）

※ 岩瀬川猿瀬発電所は施工中

2) 農業用水

大淀川流域のかんがい事業は用水路や井堰の改修、揚水機の設置等がその主なもので、水利施設の改善によりその経済効果は著しく向上しつつある。

本流域においては、かんがい用水路とともにため池を併用しているが、上流部には用水路や井堰が多く下流部においてはため池が多く見うけられる。かんがい面積について見ると大淀川水系の総かんがい面積は約24,500haである。

表5-2 主な農業用水取水施設箇所数一覧表

河川名	取水施設箇所数	取水量 (m^3/s)	かんがい面積 (ha)	摘 要
大 淀 川	高木原揚水機等 15ヶ所	7.022	4222.32	
本 庄 川	木森用水井堰等 13ヶ所	11.893	3954.80	綾北、深年川含む
高 崎 川	鶴ヶ久保揚水機 1ヶ所	0.075	4.12	
そ の 他	天神ダム等 3ヶ所	12.003	8255.80	

出典) 水利権一覧表 (宮崎工事事務所 平成13年7月)

3) 都市用水

大淀川流域において、直轄区間からの取水による上水道を有する市町村は宮崎市の3ヶ所と国富町の1ヶ所のみである。指定区間における上水による水利用は無い。

工業用水については、流域内に大きな工場がなく、現在大淀川の豊富な水は、ほとんど利用されていない。しかしながら、すでに宮崎県中南部地区に低開発地域工業開発促進地区として13地区が指定されて、その内大淀川流域内に位置する地域も含んでいるため今後その需要も予測される。

5-2 渇水被害の概要

大淀川水系においては、河川流況は恵まれており、渇水被害の発生は過去において生じていない。

図5-1(1) 水利用模式図(大淀川下流)

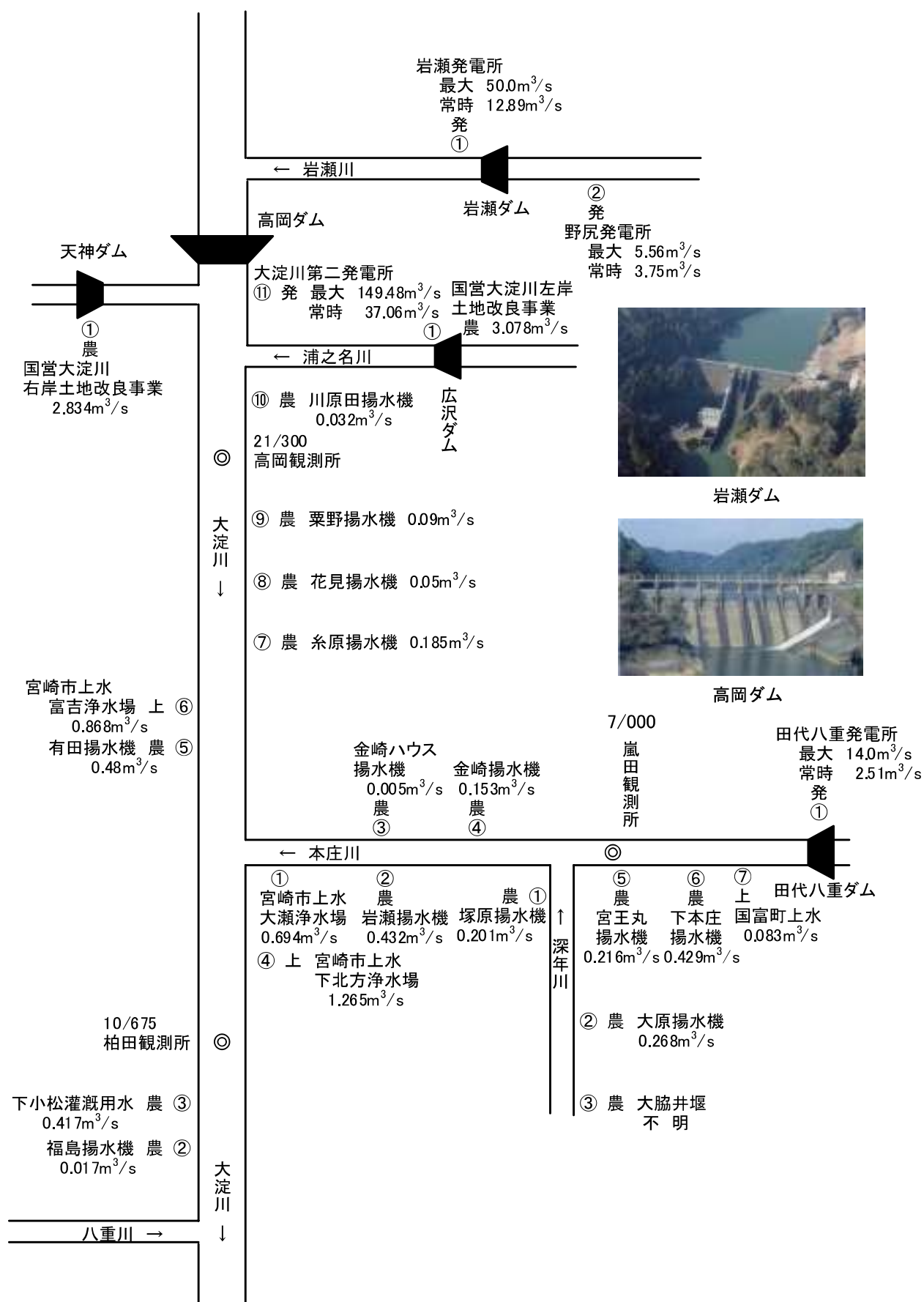
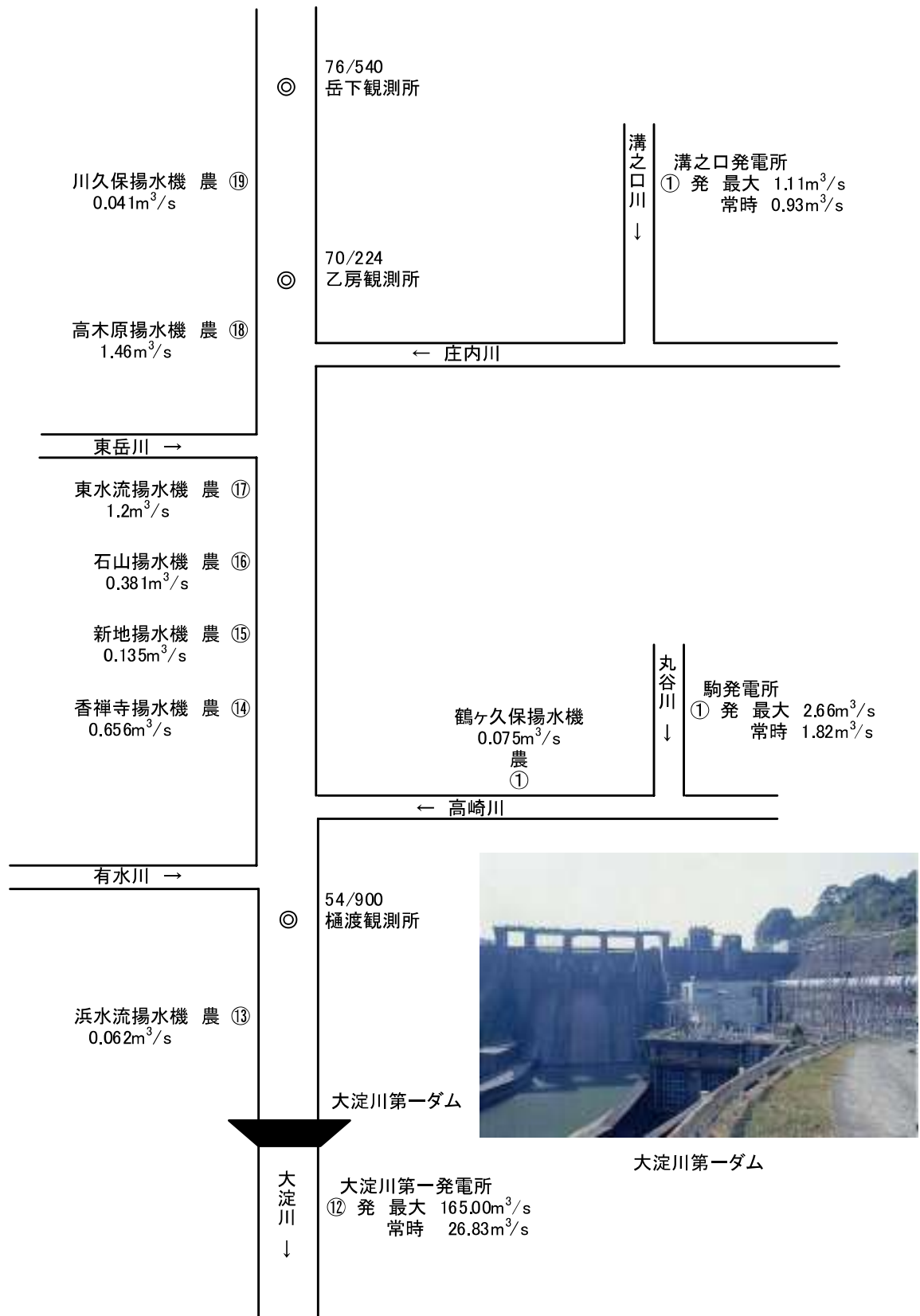


図5-1(2) 水利用模式図（大淀川上流）

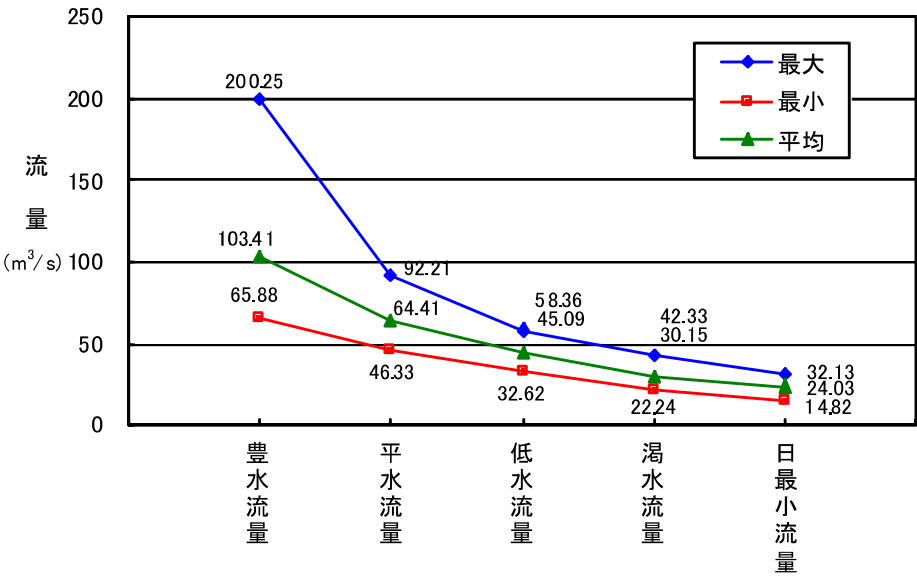


6. 河川の流況と水質

6-1 河川流況

大淀川の主要地点である高岡地点での流況は、下表に示すとおりである。昭和43年～平成12年までの33年間の平均値を見ると、低水流量が49.85（ m^3/s ）、渇水流量が33.79（ m^3/s ）である。これらを、流域面積100（ km^2 ）あたりの比流量に換算すると、それぞれ3.19（ m^3/s ）、2.16（ m^3/s ）となり比較的安定した流況となっている。

(大淀川) 高岡〔現況〕地点 流況図(最近10ヶ年)



(大淀川) 高岡〔現況〕地点 流況図(近年10ヶ年)

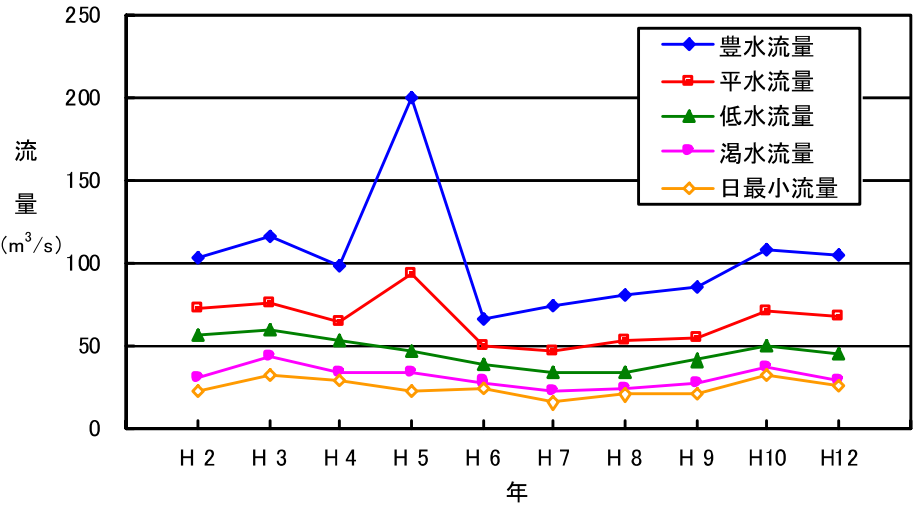


表6－1 (大淀川) 高岡〔現況〕地点流況表
 (通 年 1/1～12/31)

年		日最大 流量 (m ³ /s)	豊水流量 (m ³ /s)	平水流量 (m ³ /s)	低水流量 (m ³ /s)	渇水流量 (m ³ /s)	日最小 流量 (m ³ /s)	備 考
S. 43		1015.66	66.69	50.29	43.40	30.24	23.17	
44		2073.86	82.92	60.95	52.26	34.50	28.38	
45		811.62	114.06	78.34	54.65	35.22	30.57	
46		2906.42	115.73	70.12	51.35	33.47	24.14	
47		1638.89	137.58	85.13	70.03	49.50	38.82	
48		261.20	94.20	71.52	57.77	42.83	33.85	
49		676.22	71.99	53.54	41.33	27.62	22.66	
50		815.56	104.08	78.92	59.98	36.92	24.20	
51		2188.38	108.31	79.84	61.89	40.53	25.77	
52		672.90	88.23	63.02	49.54	36.24	19.81	
53		1018.22	65.22	48.26	39.50	25.71	17.61	
54		1437.84	96.25	70.63	45.76	26.52	20.27	
55		1187.38	132.78	93.49	71.66	49.86	35.12	
56		457.63	81.36	57.98	49.56	39.74	21.24	
57		2486.90	88.74	70.58	49.88	30.94	23.95	
58		998.20	145.32	83.47	56.85	41.61	35.39	
59		2264.70	80.23	59.43	47.91	37.44	29.53	
60		1391.68	110.59	72.68	50.51	28.39	25.03	
61		457.73	74.30	54.34	42.50	33.01	25.87	
62		1006.87	120.54	80.97	58.31	30.12	27.18	
63		535.56	97.30	61.85	44.10	35.35	25.80	
H. 1		2749.00	105.04	66.93	45.71	34.20	26.17	
2		1858.44	102.04	71.79	55.50	29.22	22.42	
3		960.16	116.16	74.69	58.36	42.33	32.13	
4		1139.63	97.96	64.52	51.96	32.68	28.26	
5		3087.93	200.25	92.21	46.04	32.64	22.20	
6		1113.39	65.88	50.05	38.80	27.53	23.69	
7		896.05	73.60	46.33	32.62	22.24	14.82	
8		1087.10	80.62	52.13	33.13	23.11	19.56	
9		3064.79	85.51	53.84	40.52	27.42	20.23	
10		1047.37	107.66	70.81	49.10	35.88	31.93	
11		(2173.43)	(135.11)	(71.58)	(47.91)	欠 測	欠 測	2月5～28日欠測
12		1009.22	104.39	67.75	44.84	28.41	25.04	
全資料	最大	3087.93	200.25	93.49	71.66	49.86	38.82	
	最小	261.20	65.22	46.33	32.62	22.24	14.82	
	平均	1384.89	100.49	67.39	49.85	33.79	25.78	
	W=1/10		66.69	50.05	38.80	25.71		3/31

注) H11年は欠測のため除外した。

6－2 河川水質

1) 環境基準

大淀川水系における水質汚濁に係る環境基準の類型指定は表6－2、図6－1に示すとおりである。

表6－2 大淀川環境基準設定状況

水 域 の 範 囲	類型	達成 期間	指定年月日
大淀川上流(岳下橋より上流)	A	ロ	昭和48年1月20日設定
大淀川中流(岳下橋から高崎川合流点まで)	B	ロ	
大淀川下流(高崎川合流点より下流(左岸入江を除く))	A	ロ	
庄内川上流(関之尾滝より上流)	AA	イ	
庄内川下流(関之尾滝より下流)	A	ロ	
丸谷川上流(渡司川合流点より上流)	AA	イ	
丸谷川下流(渡司川合流点より下流)	A	ロ	
渡 司 川	AA	イ	
高崎川上流(湯之元川合流点より上流)	AA	イ	
高崎川下流(湯之元川合流点より下流)	A	ロ	
沖水川上流(三股橋より上流)	AA	イ	
沖水川下流(三股橋より下流)	A	ロ	
東岳川上流(山之口橋より上流)	AA	イ	
東岳川下流(山之口橋より下流)	A	ロ	
岩 瀬 川	A	ロ	
境 川	AA	イ	
浦之名川	AA	イ	
綾北川上流(湯之谷川合流点より上流)	AA	イ	
綾北川下流(湯之谷川合流点より下流)	A	ロ	
本庄川上流(上畑橋より上流)	AA	イ	
本庄川下流(上畑橋より下流)	A	ロ	
深 年 川	A	ロ	
辻の堂川	A	ロ	昭和49年4月30日設定

注) 各水域は、幹川のための指定である。

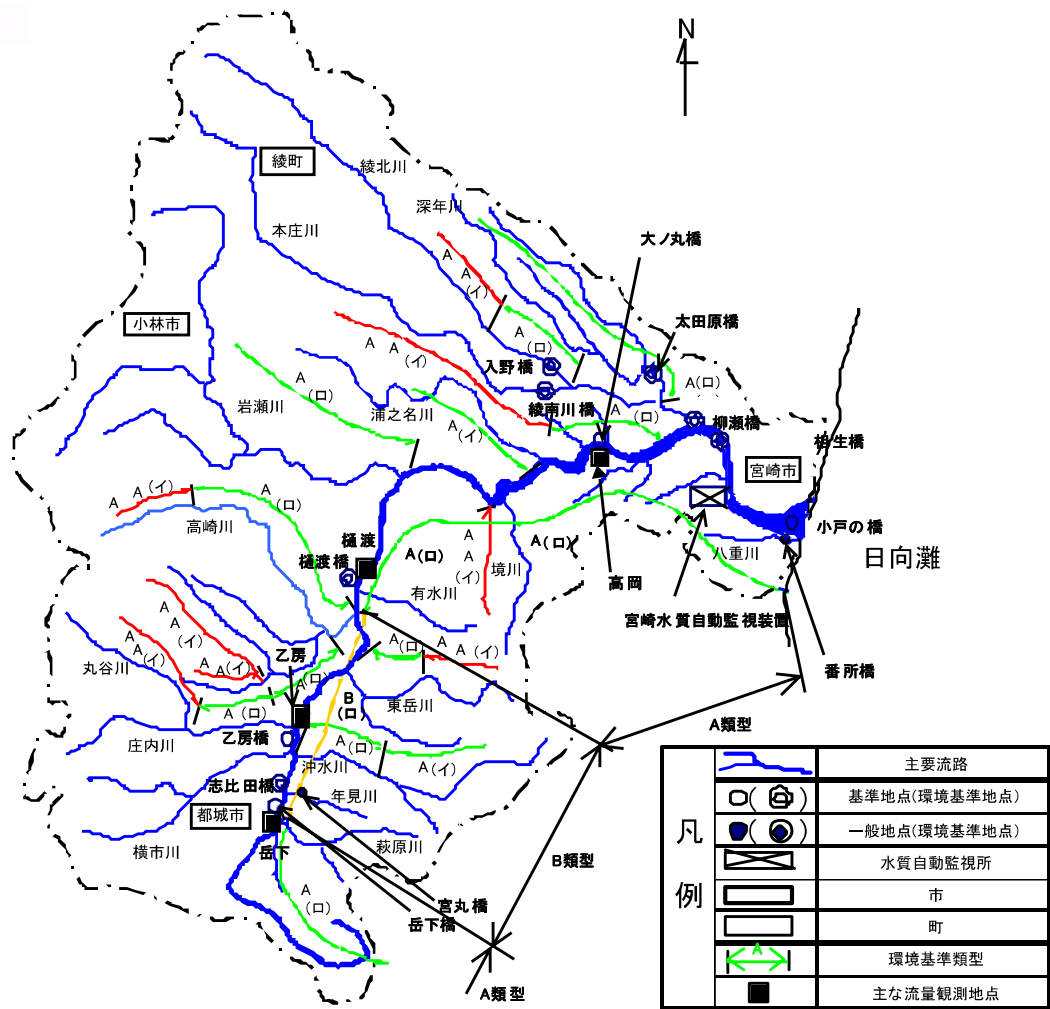


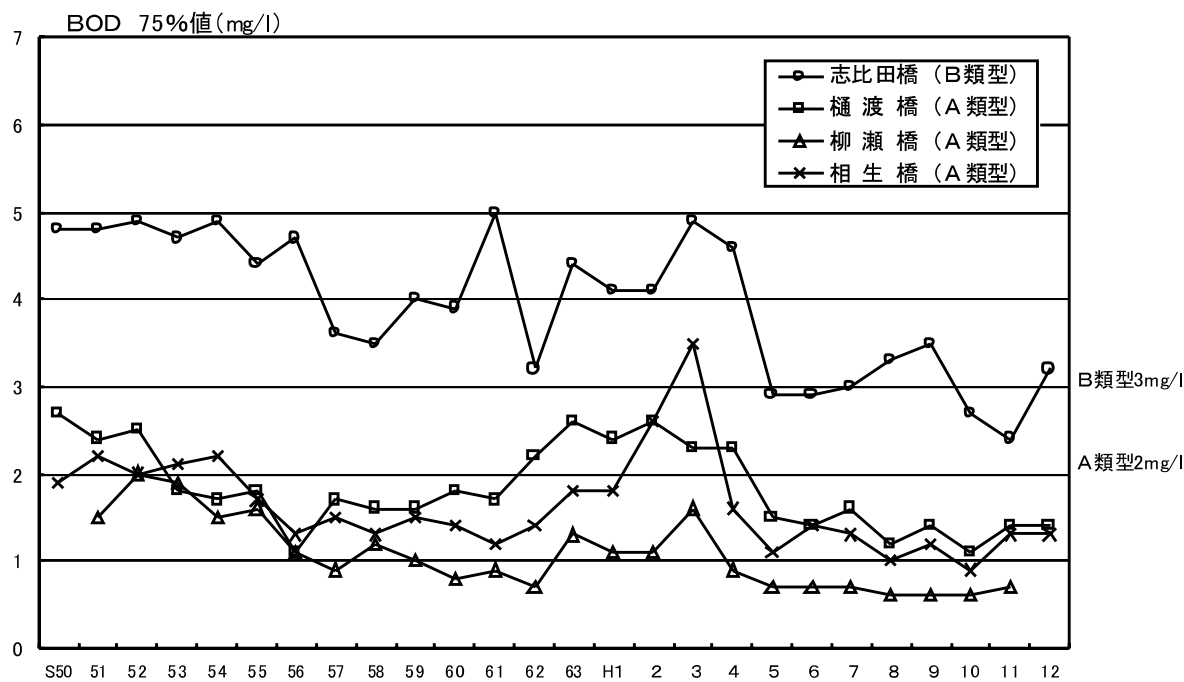
図 5-1 環境基準類型指定状況図

図6-1 環境基準類型指定状況図

2) 主要地点の現状

大淀川の水質は、家庭排水及び畜舎排水に影響される度合いが大きいですが、水質の経年変化を見ると上流部では「大淀川サミット」を契機とした流域住民の水質浄化の取り組みが行われ、平成5年頃から改善傾向にあり、全体として近年は概ね環境基準値を満足している。

図6-2 大 淀 川 水 質 経 年 変 化



7. 河川空間の利用状況

7-1 河川の利用状況

1) 上流部（樋渡上流）

上流部には関之尾の滝と甕穴、長田峡等の景勝地が多く、その周囲には宿泊レジャー施設が整備され、自然探勝や行楽に訪れる人々で賑わう。

また、各種イベント（末吉町カヌー大会、高城町イカダくだり大会、ウェルネスバルーンピア熱気球都城大会等）が催され、活発に利用されている。

2) 中流部（宮崎市街部上流）

宮崎平野までの狭窄部となる中流部は釣り場が多く、大淀川第一、第二ダムや岩瀬ダムがあり、岩瀬ダム湖（野尻湖）は毎年9月上旬には「九州地区釣り大会」が開かれるなど、多くの釣り人で賑わう。

3) 下流（宮崎平野～河口）

（1）大淀川

宮崎市街部が位置する下流部は、河川利用が盛んであり、大淀川の歴史・自然・文化を学べる「大淀川学習館」が整備され、さらに、遊びながら自然とふれあえる河川空間づくりを目指し、「大淀川水辺の楽校プロジェクト事業」も整備が行われている。

高水敷きでは各種イベント（大淀川納涼花火大会、大淀川イカダ下り大会等）が開かれ、8月中旬には大淀川河畔「橘公園」で「みやざき夏の夜祭り」が開催されている。

川の水と海水が混ざり合う河口付近では、釣りの良場として多くの釣り客で賑わう。

（2）本庄川

上流に日本一の照葉樹林の面積を有する本庄川は、その豊かな自然環境を利用し、河川プールやキャンプ場が整備され、自然との触れ合いを楽しめ、秋には五穀豊穡を祈願して、河川敷で相撲大会、郷土芸能等が催される。



ウエルネスパルーニア熱気球大会



大淀川学習館



大淀川親水公園



本庄川で行われるリバーフェスタ

7-2 高水敷地の利用状況

表7-1 河川空間の公園・グラウンド利用状況

河川名	管理者	面積	備考
大 淀 川	宮 崎 市	82.6ha	市民緑地・ゴルフ練習場
	高 岡 町	3.4ha	運動広場
	都 城 市	0.3ha	市民広場
沖 水 川	都 城 市	7.8ha	市民緑地
本 庄 川	国 富 町	3.7ha	運動広場
	綾 町	0.4ha	ゲートボール場

(出典：宮崎工事事務所資料)

表7-2 河川空間の公園・グラウンド利用内訳表

種別	河川	No.	距離標 (km)	左右 岸	地 区	利用目的	施設面積 (m ²)	管理者
公 園	大淀川	1	1.30～ 2.40	右岸	田吉地区	市民緑地	108,363.99	宮崎市長
		2	3.00～ 3.20	右岸	東大淀地区	市民緑地	788.34	宮崎市長
		3	3.61～ 3.64	右岸	太田地区	市民緑地	132.00	宮崎市長
		4	3.75～ 3.85	右岸	橋南地区	市民緑地	757.79	宮崎市長
		5	3.15～ 3.85	左岸	橋公園	公園	2,265.81	宮崎市長
		6	3.90～ 4.10	左岸	橋西地区	市民緑地	11,603.50	宮崎市長
		7	4.15～ 6.50	左岸	鶴島地区	市民緑地	137,505.95	宮崎市長
		8	5.35～ 6.50	右岸	大塚地区	市民緑地	51,760.99	宮崎市長
		9	6.60～ 9.10	右岸	下小松地区	市民緑地	136,976.61	宮崎市長
		10	10.20～10.40	左岸	瓜生野地区	市民緑地	20,010.92	宮崎市長
		11	12.85～13.05	左岸	大瀬町地区	市民緑地	23,004.67	宮崎市長
		12	75.10～75.25	左岸	志比田地区	市民広場	3,173.91	都城市長
	沖水川	13	0.20～ 1.40	左岸	川東地区	市民緑地	66,757.42	都城市長
		14	0.42～ 1.44	右岸	川東地区	市民緑地	11,221.26	都城市長
コ ^ル フ場	大淀川	1	9.10～11.10	右岸	ゴルフ練習場	市民緑地	330,746.68	宮崎市長
運動場	大淀川	1	14.60～14.70	右岸	富吉運動広場	ゲートボール	2,208.36	宮崎市長
		2	18.60～19.00	左岸	橋山運動広場	運動広場	33,731.57	高岡町長
	本庄川	3	9.10～ 9.80	右岸	向高運動広場	運動広場	36,253.21	国富町長
		4	12.98～13.18	左岸	三本松運動広場	ゲートボール	4,358.98	綾 町 長
		5	10.35～10.45	左岸	森永農村広場	運動広場	507.48	国富町長

(平成13年度 宮崎工事事務所資料より)



大淀川下流高水敷利用位置図



8. 河川管理の現状

8-1 河川管理施設

大淀川の河川管理施設は、昭和40年～50年代に築造された施設が多く、施設によってはコンクリートの劣化等に伴う老朽化が見受けられ、定期的な巡視・点検を実施し、必要に応じて維持修繕・応急対策等の維持管理を行っている。

表8-1 直轄管理区間堤防整備状況

直轄管理 区間延長 (km)	施行令 2条7号 区間延長 (km)	堤 防 延 長 (km)				
		完成堤防	暫定堤防	未施行区 間	不必要 区間	計
86.1	3.8	111.6	12.0	16.2	28.4	168.2
比率(%)		79.8	8.6	11.6		

(宮崎工事事務所資料：平成14年3月現在)

※比率は、堤防不必要区間を除いた値に対する割合。

表8-2 直轄管理区間水閘門等河川管理施設整備状況

堰	水 門	床 止	排水機場	樋門樋管等	計
0	9	3	2	140	154

8-2 河道内植生

大淀川の河川区間区域内の植生については、植生の有する治水機能・環境機能を十分に考慮して、定期的に調査・点検を行い、適切に管理している。特に、大淀川4/200～6/200左岸、その下流の丸島にみられるヨシ群落は、コサギ、ゴイサギ、カワウ、ミサゴ等の鳥類の営巣・生息の場となっていることから、治水と環境の調和を図る方向にて管理している。



8-3 地域との連携

大淀川は、宮崎市、都城市街地を貫流し、流域住民のいこいの場として愛されており、地元住民の大淀川に対する想いは川まつり等に代表される各種イベントを通じて大きく、かつ市街部における貴重な水と緑のオープンスペースとして地域住民のニーズが高い状況にある。

このため、第三次宮崎市総合計画（H10～H19）の6つの基本目標の一つで、「自然と共生し、安心して暮らせる快適環境都市」として、宮崎市河川をきれいにする条例を制定し、地域社会全体で美しく豊かな河川環境の形成を図ることとしているとともに、「豊かな心と創造性を育む教育文化都市」として、大淀川とそれらを取り巻く環境に焦点を当てた教育活動が行われていたり、さらには大淀川学習の拠点施設として「大淀川学習館」の整備も行われている。

また、毎年7月7日の七夕の日に、流域関係市町村により大淀川の浄化と河川環境の保全を目的に「大淀川サミット」が開催され、様々な取り組みが行われている。

このように大淀川では河川に関する情報を、流域住民に幅広く提供すること等により、河川と流域住民とのつながりや流域連携の促進及び支援、河川愛護思想の定着と啓発、住民参加による河川管理を推進している。



大淀川学習館



第9回大淀川サミットパネルディスカッションの状況
（平成13年7月7日）

大淀川サミットにおける各市町村が行った事業概要

第5回 大淀サミット末吉大会
パネルディスカッション記録
平成9年7月7日より抜粋

	市町村	事業概要
上 流	※都城市	●市民の皆さん方へ“それぞれの家庭の台所からきれいにしよう”運動 ●公共下水道、集落排水事業、合併浄化槽 ●北諸5町と都城市で畜産廃棄物をエネルギー化（平成8年より通産省の協力を得て推進中）
	※三股町	●小型合併処理浄化槽の強化 ●廃食油せっけん製造機の購入
	※財部町	●森林保全 ●河川の掃除、クリーン作戦 ●合併浄化槽の普及啓蒙 ●中核農家以上に堆肥舎の設置
	※末吉町	●水資源のかん養林を残す事業 ●生活廃水対策普及活動事業 ●合併処理浄化槽、クリーンセンターゴミ処理施設（平成8年） ●堆肥センターを計画（将来的平成11年まで）
	山之口町	●農業集落排水事業（平成3年度着工） ●合併処理浄化槽設置整備事業（平成5年） ●公共下水事業（平成8年）
	高崎町	●河川浄化推進員による河川へのゴミの不法投棄パトロール ●公民館にクリーン部の設置を行い、合成洗剤の使用を少なくし、食用廃油でのせっけん作り ●公共下水、農業集落排水事業、合併処理浄化槽を年次計画
	小林市	●毎年市民に、啓発啓蒙運動を年間8回 ●公共下水道、農業排水事業、合併浄化槽、平成13年を目処に約25%位が生活雑排水の処理をする計画 ●パンフレットによる家庭排水、畜産のし尿等の対策
	野尻町	●下水、農業集落排水事業 ●町独自の水質調査
	高城町	●公共下水、集落排水、合併処理浄化槽 ●生活排水対策総合基本計画の策定（平成4年） ●川をきれいにする条例の制定（平成6年）
	高原町	●町内の主要河川6箇所を年4回づつ水質調査を実施 ●キャンプ村に2基の大きな浄化施設を設置し、1万人以上のキャンパーの生活雑排水、し尿を処理
下 流	山田町	●農業集落排水事業（平成6年） ●合併処理浄化槽（以前より） ●公共下水（将来平成14年）
	須木村	●農業集落排水事業を平成7年にスタート
	綾町	●「綾町の水を守る会」を発足（10団による） ●食用廃油を元とした粉せっけんへの転換 ●農業集落排水整備事業
	国富町	●公共下水道への取り組み ●堆肥センターを作り畜産廃棄物及び家庭用生ゴミの処理
	高岡町	●「美しい故郷づくりを」を平成4年4月に制定し、花いっぱい運動、ゴミ対策事業、河川浄化運動の3つを重点に行っている ●河川浄化のクリーン作戦を毎年実施 ●農業集落排水事業、合併浄化槽を毎年50基実施
	宮崎市	●現在、公共下水道、農業集落排水事業、合併処理浄化槽により人口303,000人のうち206,500人の約68%に対処処理可能

注）※都城市、三股町、財部町、末吉町は岳下地点に流入する市町村

8-4 水防体制

1) 河川情報の概要

大淀川では、流域内に雨量観測所（28箇所）、水位観測所（20箇所）を設置し、テレメータ等により迅速に情報収集するとともに、これらのデータを用いて河川の水位予測等を行い、流域住民の水防活動に活用されている。

また、これらの情報を重要な防災情報として、（財）河川情報センターを通じて宮崎県や宮崎市、都城市等に提供している。



図 雨量・水位観測所位置図

テレメーター

自動車測候局で
水位と雨量を一
日中観測し、1
時間ごとにデー
タを送ります。



地震計

管内の主要なチェックポイントに設置
された地震計のデータは、災害対策本部
に送られます。



地震計



処理器

レーダー雨量計

九州地方整備局管内のレーダー雨量計
システムは、レーダーサイト局が、長崎
県五島列島の八木山(西部局)大分県日
田郡の釈迦岳(北部局)鹿児島県肝属郡の
国見岳(南部局)の3カ所に設置され、ほぼ
全九州をカバーしています。

宮崎工事事務所



CCTVモニタ操作室



情報収集

光ファイバーケーブル

光ファイバーケーブル



光ファイバーケーブル



光情報センサシステム



出張所



情報BOX



光ファイバーケーブル



VICS (カーナビへの
情報提供)



道路情報板



ビーコン



ドライバーへの
情報伝達

2) 水防警報の概要

大淀川では、洪水による災害が起こる恐れがある場合に、水位観測所の水位をもとに水防管理団体に対し、河川の巡視や災害の発生防止のための水防活動が迅速、的確に行われるように水防警報を発令している。

3) 洪水予報河川の指定

大淀川では、平成2年4月より水防法第10条及び気象業務法第14条に基づき、洪水予報指定河川となり、気象台と共同で「洪水予報」を発表するようになった。また、平成12年より洪水予報システムの改良を行い、洪水による被害発生のおそれのある「危険水位」を新たに設定した。

4) 洪水危機管理の取り組み

洪水危機管理において、平常時から危機管理に対する意識の形成を図るとともに、洪水発生時の被害を最小限に抑えるため、浸水実績や洪水氾濫危険区域図を公表するとともに水防計画・避難計画の策定支援、土地利用計画との調整を関係機関や地域住民等と連携して推進している。

〔関係機関の情報ネットワーク図〕

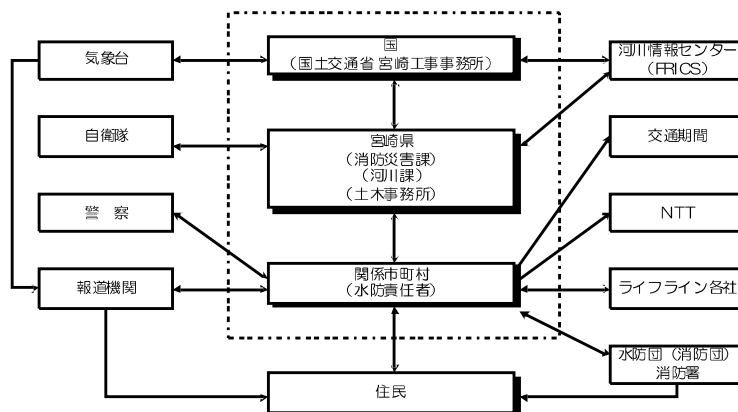


図 大淀川洪水危機管理における情報ネットワーク図

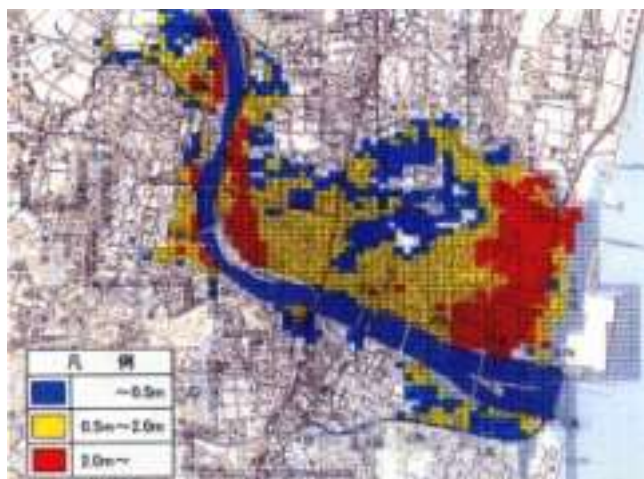


図 大淀川市街部の洪水氾濫危険区域図